



Civic TypeR

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

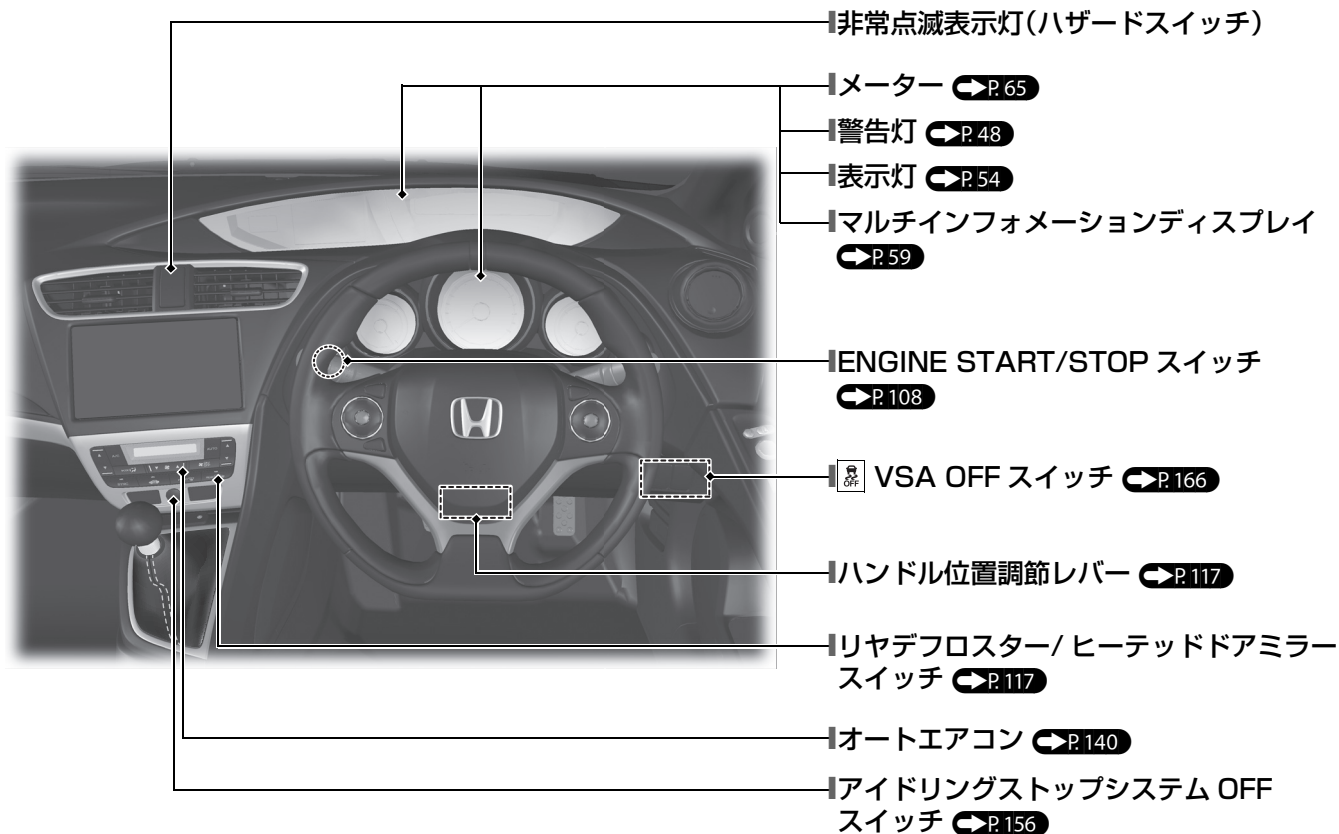
メンテナンス

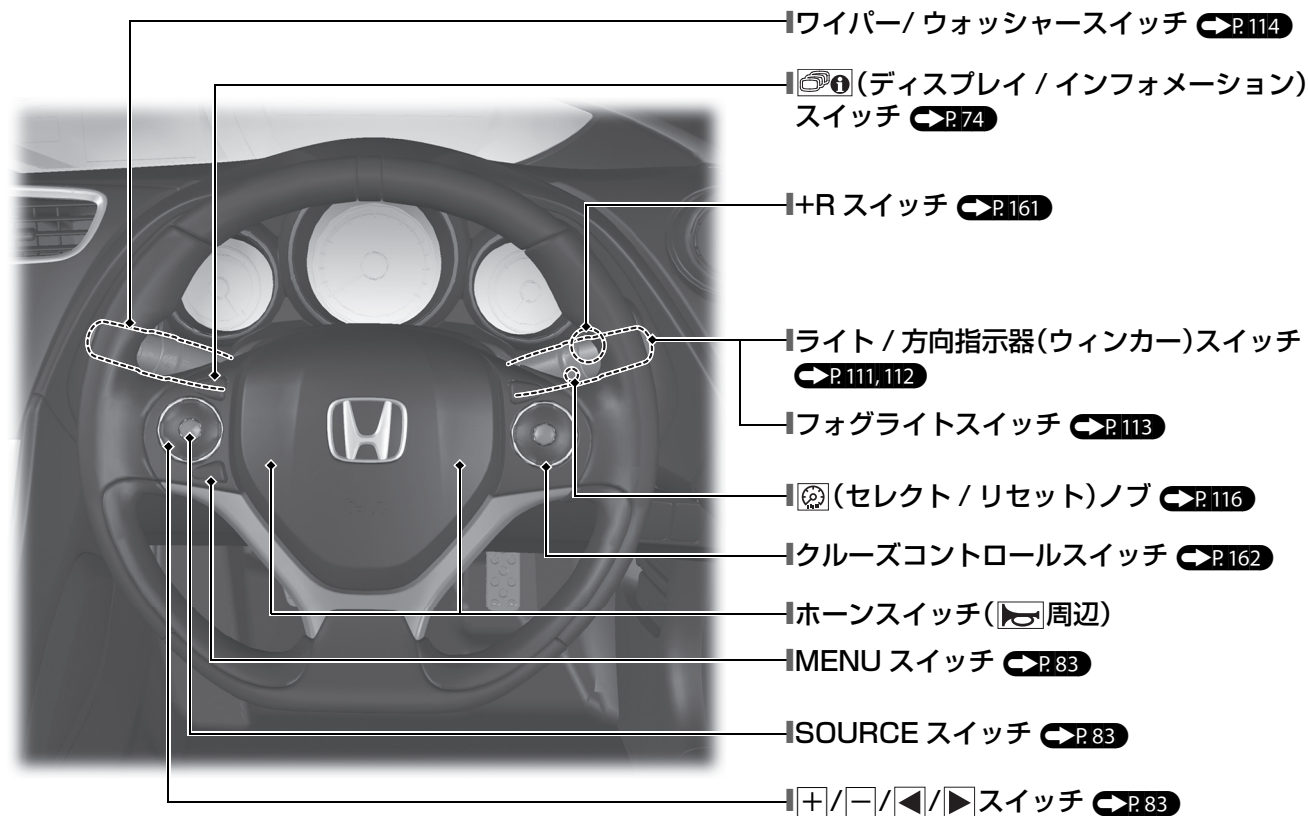
万一の場合には

資料

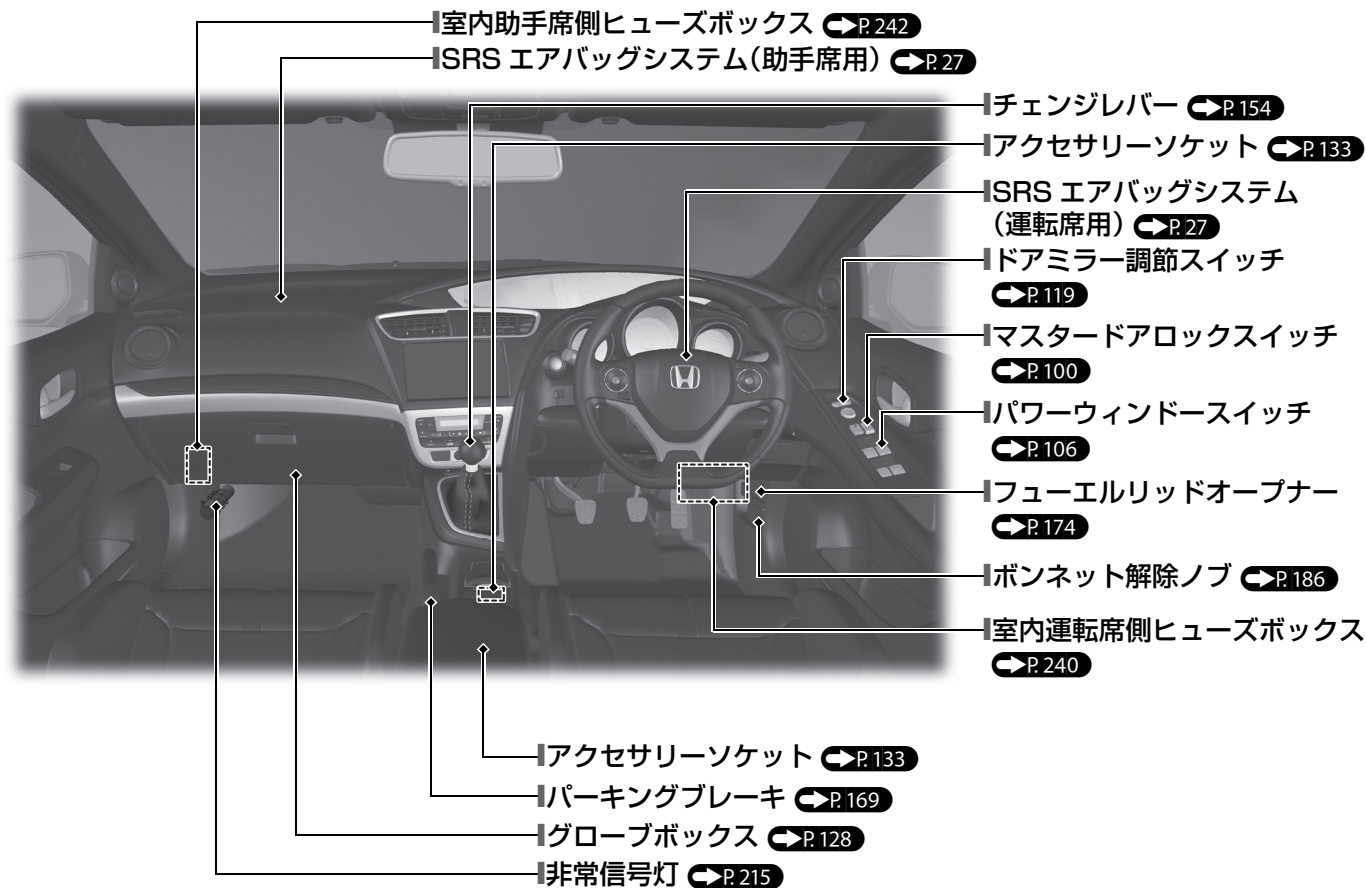
索引

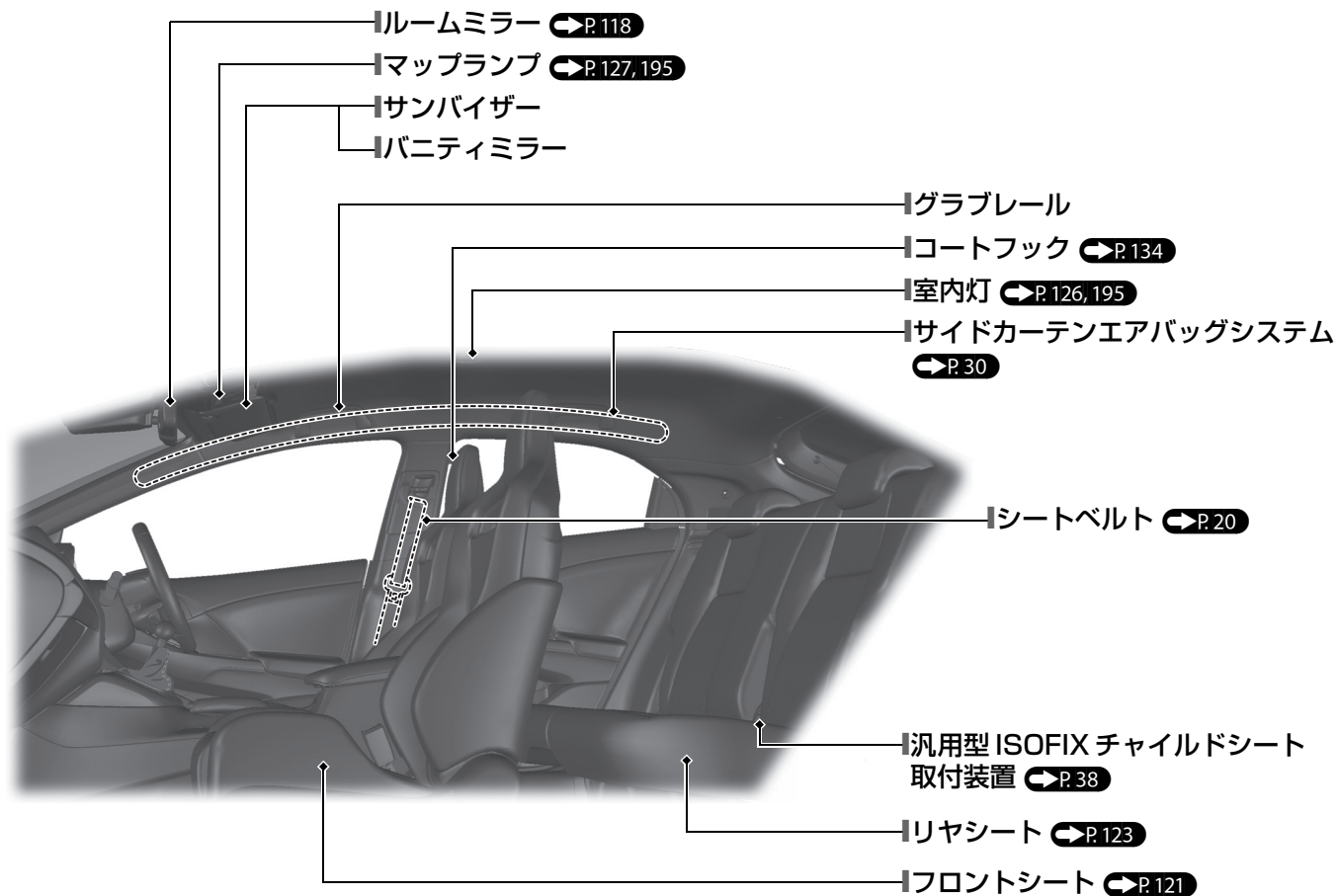
ビジュアル目次



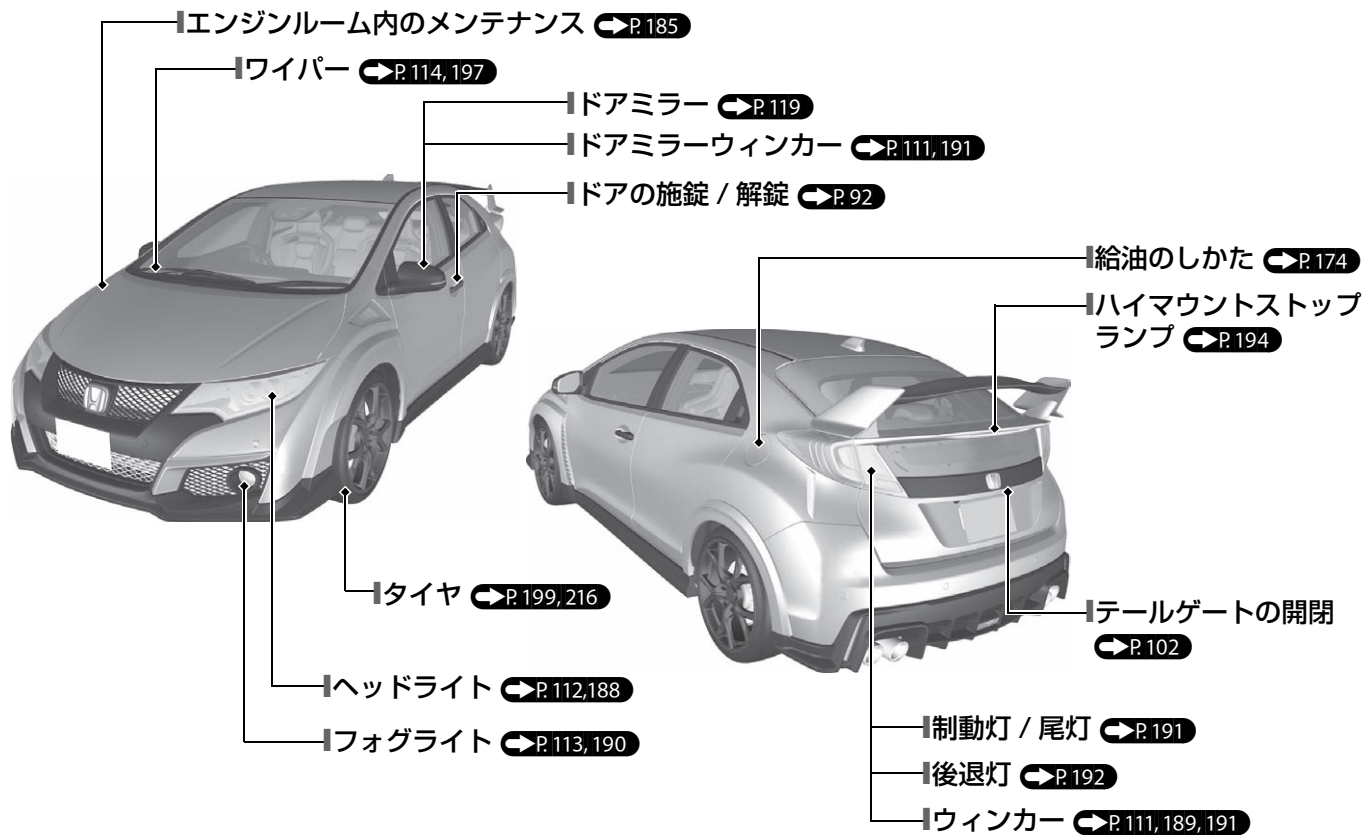


ビジュアル目次





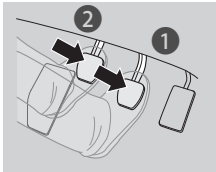
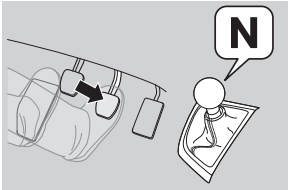
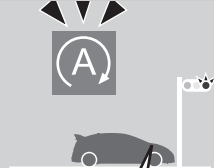
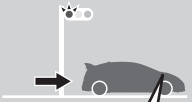
ビジュアル目次



アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。

アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。➡P.156

走行状態	マニュアル車の操作	操作後のエンジンの状態
減速 ↓	1. 停車してブレーキペダルを踏む。 2. クラッチペダルをいっばいに踏み込む。 	 エンジン作動中
停車 ↓	• ブレーキペダルを踏み続ける。 • チェンジレバーを N (ニュートラル) にする • クラッチペダルを離す。 	 アイドリングストップ中
発進 ↓	1. クラッチペダルをいっばいに踏み込む。 2. チェンジレバーを 1 にする 3. 通常の発進時の操作をする。 	 エンジンが自動的に再始動

安全なドライブ ➡P.18

運転を始める前の確認 ➡P.19

- 運転前にフロントシートの位置、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

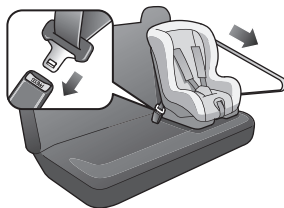
シートベルト ➡P.20

排気ガスについて ➡P.46

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動させないでください。

お子さまの安全 ➡P.35

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ➡P.27

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➡P.47

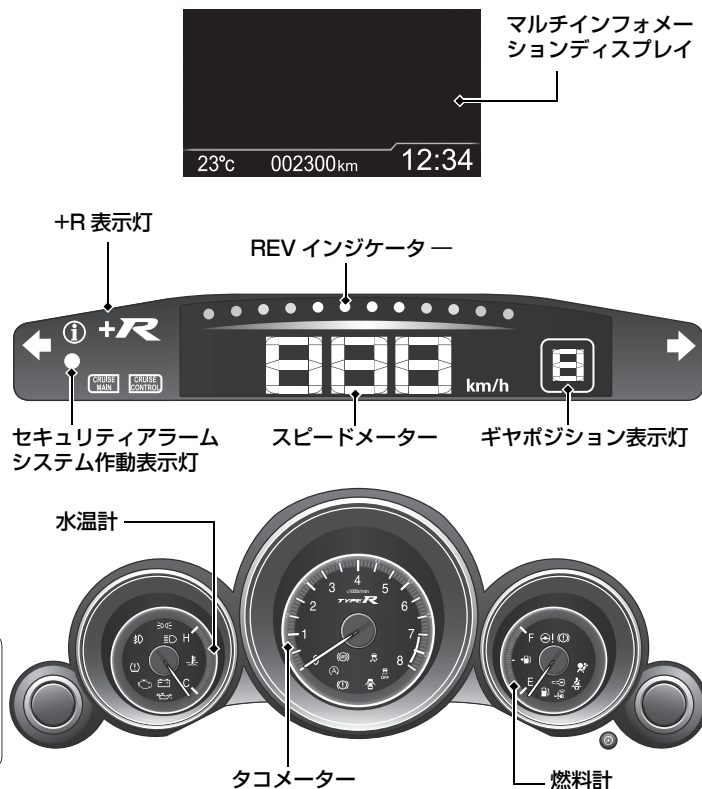
警告灯 ➡P.48 表示灯 ➡P.54 メーター ➡P.65
 マルチインフォメーションディスプレイ ➡P.67

警告灯 / 表示灯

-  EPS システム警告灯
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯
-  Honda スマートキーシステム警告灯
-  VSA OFF 警告灯
-  VSA 警告灯
-  PGM-FI 警告灯
-  油圧警告灯
-  充電警告灯
-  アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)
-  アイドリングストップ表示灯(グリーン)

ライト表示灯

-  ハイビーム表示灯
-  フォグライト点灯表示灯
-  ライト点灯表示灯



警告灯 / 表示灯

-  方向指示器 / 非常点滅表示灯
-  クルーズメイン表示灯
-  クルーズコントロール表示灯
-  エアバッグシステム警告灯
-  イモビライザーシステム表示灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  ドア / テールゲート開閉警告灯
-  燃料残量警告灯
-  ABS 警告灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)
-  ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
-  インフォメーション表示灯
-  タイヤ空気圧警報システム警告灯

各部の操作 ➡ P.90

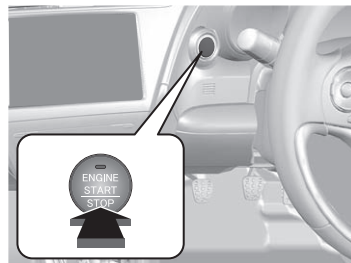
時刻を合わせる ➡ P.91



- 1 MENU スイッチを押す。
- 2 $\square$ / $\square$ スイッチで「Adjust clock」を選択し、SOURCE スイッチを押す。
- 3 $\square$ / $\square$ スイッチを押して時計表示 (24 h/12h) を切り換える。
- 4 $\square$ / $\square$ スイッチで時または分を選択する。
- 5 $\square$ / $\square$ スイッチを押して時刻を合わせる。
- 6 選択を確定するには、 $\square$ / $\square$ スイッチで $\square$ を選択し、SOURCE スイッチを押す。

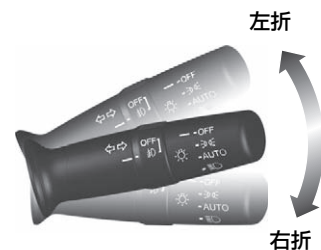
ENGINE START/STOP スイッチ ➡ P.108

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



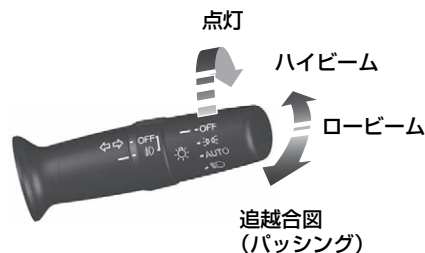
ウィンカー ➡ P.111

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



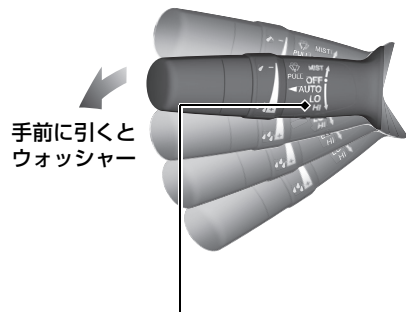
ライト ➡ P.112

ライトスイッチ



ワイパー ➡ P.114

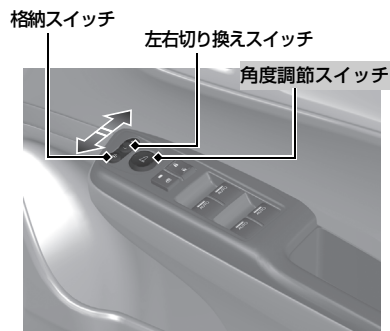
ワイパー/ ウォッシャースイッチ



- MIST (レバーを操作している間作動)
- OFF 停止
- AUTO 自動操作
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

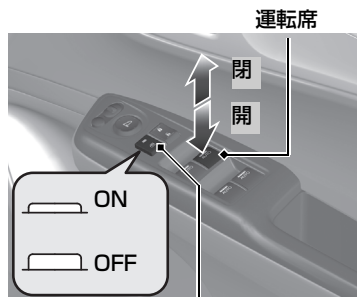
ドアミラー ➡ P.119

- パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー ➡ P.106

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



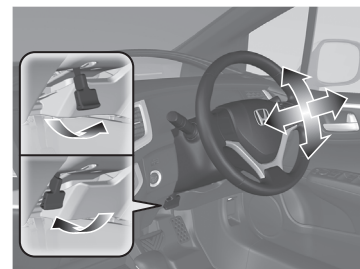
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節

➡ P.117

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



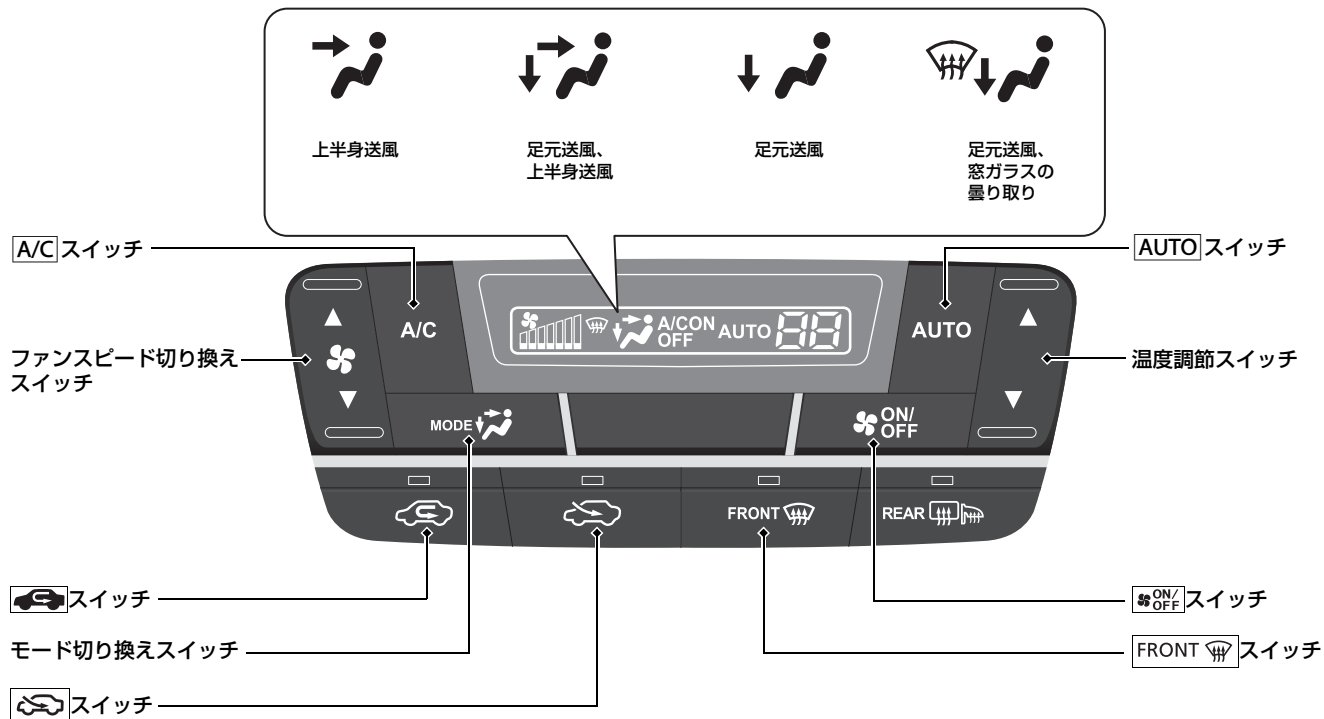
テールゲート ➡ P.102

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



エアコン P.139

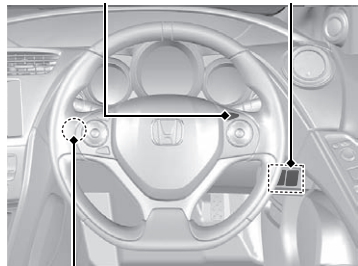
- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押します。



運転 ➡P.146

マニュアル車 ➡P.154

CRUISE スイッチ VSA OFF スイッチ



ENGINE START/STOP スイッチ

VSA OFF スイッチ ➡P.166

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

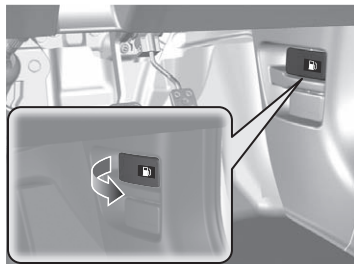
CRUISE スイッチ ➡P.162

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

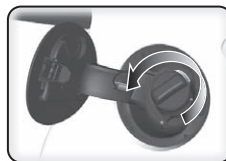
ガソリンを入れる ➡P.174

指定燃料： 無鉛プレミアムガソリン
タンク容量： 50 リットル

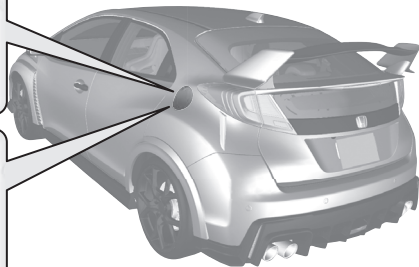
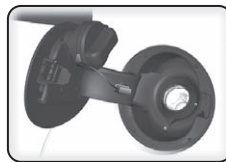
- 1 フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



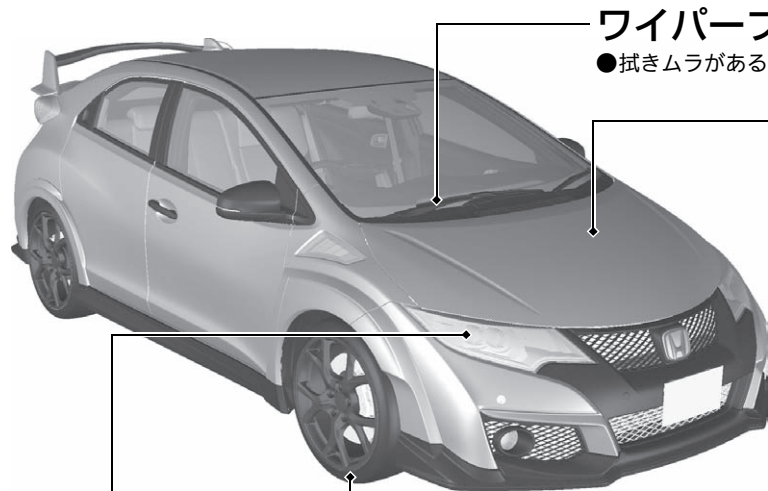
- 2 ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- 3 キャップをホルダーにかける。



メンテナンス ➡ P.179



ワイパーブレード ➡ P.197

● 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム ➡ P.185

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- バッテリーを点検します。

タイヤ ➡ P.199

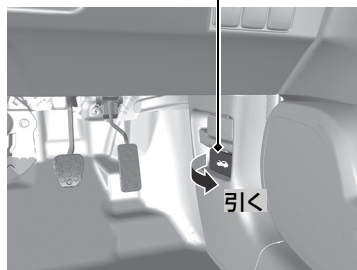
- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤが必要です。

ライト ➡ P.188

- ヘッドライト、フォグライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡ P.237

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

ボンネット解除ノブ



- 2 レバーを押してボンネットを開ける。



万一の場合には ➡P.214

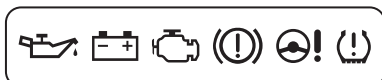
パンクした ➡P.216

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した ➡P.233

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

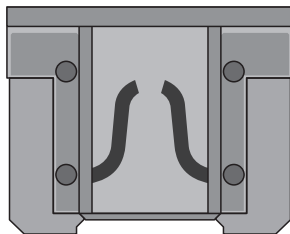
➡P.227

- バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた ➡P.237

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ➡P.232

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡P.244

- 必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q **ENGINE START/STOP** のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない

A • ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。



Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A • ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A • チャイルドブルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q キーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A • キーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

- A**
- パワーモードを OFF モード以外にいませんか？
 - ライトを消し忘れていませんか？
 - アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る

- A**
- 運転席および助手席シートベルトを着用していますか？
 - パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

- A**
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q プレミアム(ハイオク)ガソリン仕様車にレギュラーガソリンを使用しても大丈夫ですか？

- A**
- プレミアムガソリンが入手できないときはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能を発揮できません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.18

安全なドライブのために 19 シートベルト 20 エアバッグ 27 お子さまの安全 35
排気ガスの危険性 46

計器の見かた P.47

警告灯と表示灯 48 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 65

各部の操作 P.90

時刻の設定 91 ドアの施錠と解錠 92 テールゲートの開閉 102 セキュリティシステム 104
ウィンドーの開閉 106 ハンドルまわりのスイッチ操作 108 ミラー類の調節 118
シートの調節 121 室内灯 / 室内装備品 126 エアコン 139

オーディオ P.144

運転 P.146

運転の前に 147 運転操作 149 ブレーキ操作 169 駐停車操作 173
給油 174 ターボ車について 177 アクセサリーと改造 178

メンテナンス P.179

メンテナンスの前に 180 オイルモニターシステム 182 エンジンルーム内のメンテナンス 185
電球の交換 188 ワイパーブレードラバーの点検と整備 197 タイヤの点検と整備 199
Honda スマートキー 204 エアコンのお手入れ 206 清掃 209

万一の場合には P.214

工具、非常信号灯 215 パンクしたとき 216 エンジンが始動しない 227 ジャンプスタート 230
オーバーヒート 232 警告灯の点灯 / 点滅 233 ヒューズ 237 けん引 244
テールゲートが開かないとき 245

資料 P.246

仕様 247

安全なドライブ P.18

計器の見かた P.47

各部の操作 P.90

オーディオ P.144

運転 P.146

メンテナンス P.179

万一の場合には P.214

資料 P.246

索引 P.248

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 19

シートベルト

シートベルトについて 20

シートベルトの着用 23

シートベルトの点検 26

シートベルトのアンカーポイント 26

エアバッグ

エアバッグの種類 27

SRS エアバッグ 27

サイドカーテンエアバッグ 30

エアバッグシステム警告灯 33

エアバッグのお手入れ 34

お子さまの安全 35

乳幼児の安全 36

大きなお子さまの安全 44

排気ガスの危険性

一酸化炭素について 46

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❏ 車内での施錠 / 解錠 P.99
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
❏ フロントシート P.121
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
❏ フロントシート P.121
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❏ シートベルトの着用 P.23
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❏ エアバッグ P.27
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
❏ お子さまの安全 P.35
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを上り坂の場合 **[1]**、下り坂と平地の場合 **[R]** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
❏ シフト操作 P.154

❏ 安全のための確認事項

ドア / テールゲート開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア / テールゲート開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ ドア / テールゲート開閉警告灯 P.51

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

❏ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.59

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

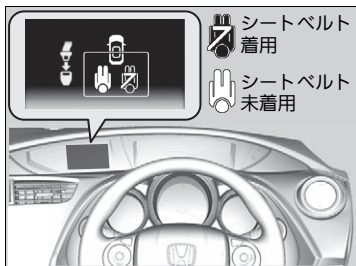
シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



■リヤシート

パワーモードがONモードのときに、後席ドアを開閉すると、リヤシートベルトを着用するまでマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

MENU スイッチから「Vehicle information」を選択し、**+****-**スイッチで「Rear seat belt information」画面を表示します。

※シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



※シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

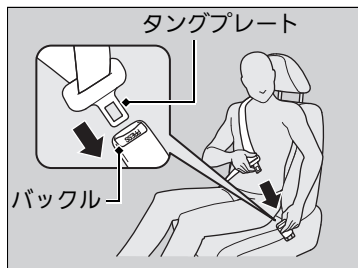
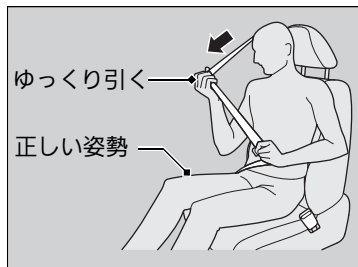
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。
3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。
4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるとに合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

※ シートベルトの着用

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをす
るおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながらアンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

▶▶ ショルダーアンカーの高さ調節



注意

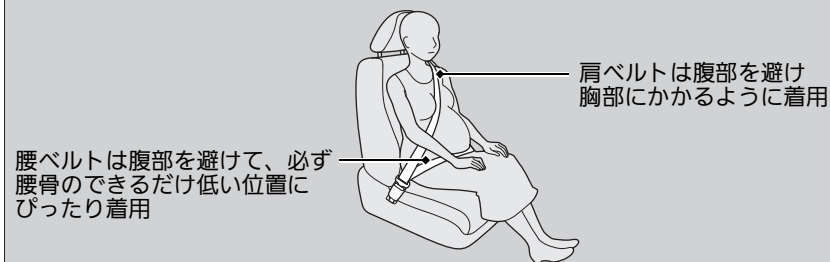
調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

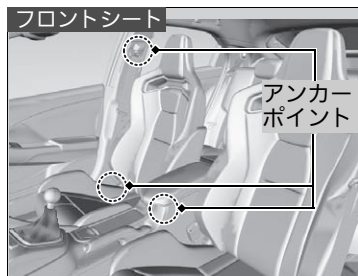
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

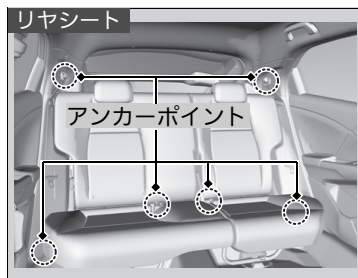
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についてエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※エアバッグの種類

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグシステム装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

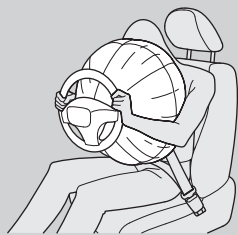
エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。

安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

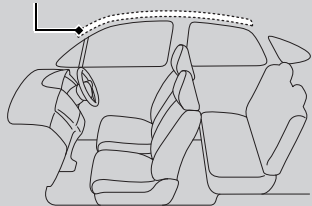
車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

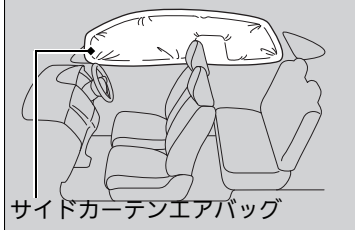
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドカーテンエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドカーテンエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

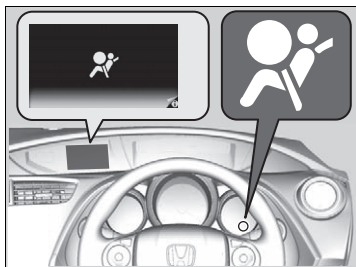
■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■ **パワーモードを ON モードにしたとき**
 パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■ **異常が発生したとき**
 エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

⚠ エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❖ お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

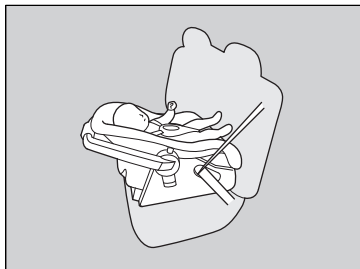
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置してください。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

※乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

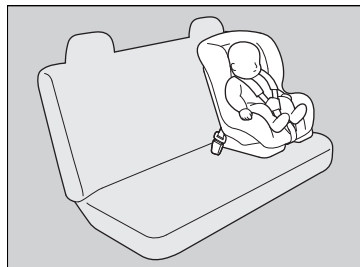
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシートに付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること

■ 選択の目安 P.39, 40

- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシートには、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。

次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	座席位置		
			前席 助手席	後席 右席	後席 左席
キャリコット	F	ISO/L1	—	X	X
	G	ISO/L2	—	X	X
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	—	X	X
グループ 0 + ～ 13kg	E	ISO/R1	—	IL ^{※1}	IL ^{※1}
	D	ISO/R2	—	X	X
	C	ISO/R3	—	X	X
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	X
	C	ISO/R3	—	X	X
	B	ISO/F2	—	IUF, IL ^{※2}	IUF, IL ^{※2}
	B1	ISO/F2X	—	IUF, IL ^{※2}	IUF, IL ^{※2}
グループ II 15kg ～ 25kg	A	ISO/F3	—	IUF, IL ^{※2}	IUF, IL ^{※2}
	—	—	—	X	X
グループ III 22kg ～ 36kg	—	—	—	X	X

記号の説明

IL^{※1} : Honda Baby ISOFIX、Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを後ろ向きに取り付け可能です。

IL^{※2} : Honda ISOFIX Neo チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

IUF : 汎用型(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X : ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

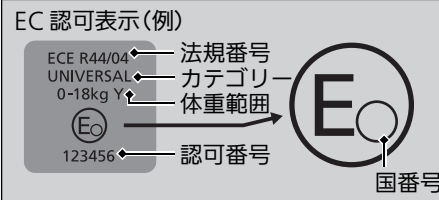
■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さま の大きさ	使用の 向き	形状、 大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX (汎用)と案内があります。



■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプチャイルドシート 重量区分	座席位置		
	前席 助手席	後席 右側席	後席 左側席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U
グループ 0 + ～ 13kg	X	U	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※	U	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※	U	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※	U	U

記号の説明

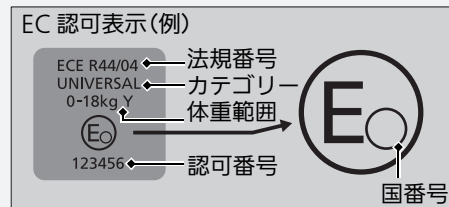
- U : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
- UF : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- X : チャイルドシートを取り付けできません。
- ※ : シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL(汎用)と案内されているものもあります。

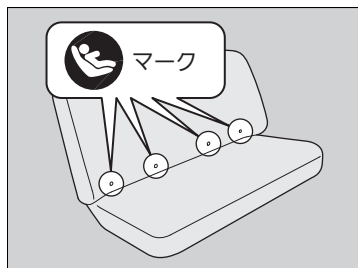


シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下の子ートクッションと背もたれのすき間からロアアンカレッジを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

3. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

4. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。

5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

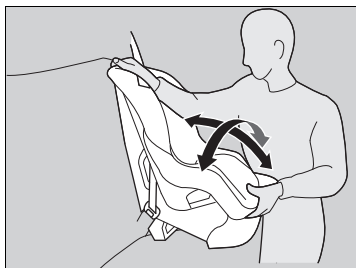
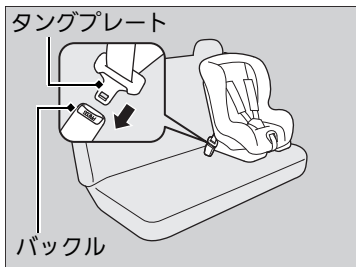
チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

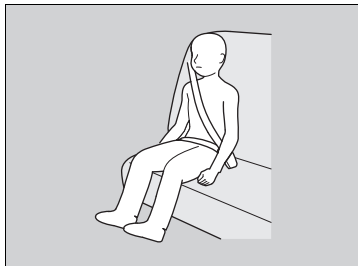
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートについて

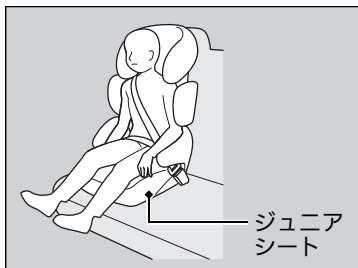
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※大きなお子さまの安全



警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、**次ページの注意事項を厳守してください。**

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

※一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンをかけないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯 48

表示灯 54

マルチインフォメーションディスプレイ
のメッセージ 59

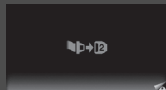
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター 65

マルチインフォメーションディスプレイ 67

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯 (レッド)	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) - パーキングブレーキをかけると点灯 - ブレーキフルード量が低下したときに点灯 - ブレーキシステムが異常のときに点灯	- 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ■ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.234	 
	油圧警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ■ 油圧警告灯が点灯した P.233	
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	PGM-FI 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 - エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 - エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて冷えるのをお待ちください。 ☑ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.234	
	充電警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - バッテリーが充電されていないと点灯	走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ☑ 充電警告灯が点灯した P.233	
	シートベルト非着用警告灯	- 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - パワーモードを ON モードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ☑ シートベルトリマインダー P.21	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	Honda スマートキーシステム警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	- 下記のような場合、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 - 運転中に点灯した - エンジン始動後も消灯しない - パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した - パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	
	燃料残量警告灯	- 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ7.5リットルになったときです。 - 燃料計に異常があるときは点滅	- 点灯したら早めに給油してください。 - 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ABSが異常のときに点灯	点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 🔍 ABS(アンチロックブレーキシステム) P.171	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	エアバッグシステム警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 下記の異常を検知すると点灯 - エアバッグシステムの異常 - プリテンショナーシステム異常	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA が作動しているときは点滅 - ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	- 運転中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ❑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.165	
	VSA OFF警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA を OFF にすると点灯	❑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.165	
	ドア / テールゲート開閉警告灯	- ドア/テールゲートが閉まっているときは、パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ドア/テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	ドア / テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - EPSシステムの機能に異常があると点灯	- 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ■ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.235	
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯	点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	  (オレンジ)

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	タイヤ空気圧 警報システム 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーモードを ON モードにして 45 秒間車を動かさなかったとき、タイヤ空気圧警報システムが初期化されていないことを知らせるために一瞬点灯 • いずれかのタイヤの空気圧が著しく低いときに点灯 • タイヤ空気圧警報システムが初期化されていないときに点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに安全な場所に車を停車し、タイヤの空気圧を点検してください。 • タイヤの空気圧が低いときは、指定空気圧まで空気を補充してください。 • タイヤの空気を補充した場合は、タイヤ空気圧警報システムを初期化してください。  タイヤ空気圧警報システムの初期化 P.167	
		• タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約 1 分間点滅したあと、点灯	• 点滅したあと点灯したときは、Honda 販売店で点検を受けてください。	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 🔧 電球の交換 P.188, 190	—
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯	フォグライトを点灯させると点灯	—	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	- パワーモードをONモードにするとき一瞬点灯し、すぐに消灯 - イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	- 一瞬の点灯は異常ではありません。 - 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度ONモードにしてください。 - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 ENGINE START/STOP のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
 表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	 セキュリティアラームシステム P.104	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	クルーズメイン表示灯	クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると点灯	❏ クルーズコントロール P.162	—
	クルーズコントロール表示灯	クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	❏ クルーズコントロール P.162	—
	ギヤポジション表示灯	1～6速のギヤポジションを表示	- 停車時(約3km/h未満)およびNポジション時はギヤポジションは表示されません。 - 非常に遅い動作でギヤチェンジをした場合、一瞬異なるギヤポジションが表示されることがあります。 ❏ シフト操作 P.154 - 表示のON/OFFはマルチインフォメーションのカスタマイズで変更することができます。 ❏ カスタマイズのしかた P.83 - 以下の場合にはギヤポジションおよび枠線は表示されません。 Rポジション時 - カスタマイズでギヤポジション表示灯の表示をOFFにしたとき	—

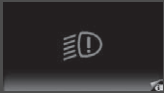
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	+R 表示灯	• +R スイッチを押すと表示	▶ +R モード P.161	—
	REV インジケータ	• インジケータ はエンジン回転数に応じて両端から点灯します。 • 中央の2個のインジケータは、エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーンに入る前に点滅します。また点滅することでシフトアップタイミングを知らせます。	▶ シフト操作 P.154 • 表示のON/OFFはマルチインフォメーションのカスタマイズで変更することができます。 ▶ カスタマイズのしかた P.83	—
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯 • アイドリングストップ中に、以下のような状態になると点滅 • 窓ガラスが曇る可能性があるとき • 快適性が維持できないとき(エアコンが必要なとき) •  スイッチを押したとき	• クラッチペダルを踏んで、エンジンを再始動させてください。 ▶ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき P.160	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション()スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション()スイッチを押すと、メッセージを再表示させることができます。	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション()スイッチを押してください。

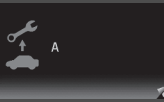
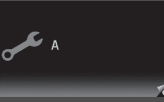
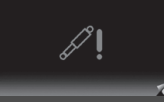
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3℃以下になると 1 回のみ表示	—
	パワーモードが ON モードのときに、リヤシートベルトを着用または外すと約 30 秒間表示	▶ シートベルトリマインダー P.21
	スターターシステムが異常のときに表示	ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	エンジンの冷却水の温度が著しく高いときに表示	▶ オーバーヒート P.232

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	パワーモードがONモードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ☒ Honda スマートキー持ち去り警告 P.110
	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	☒ 電池交換のしかた P.204
	オートライトコントロールシステムに異常があると表示	運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ☒ ライトスイッチ P.112
	パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに表示	☒ エンジンの始動 P.149
	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP を押すと、警告音と同時に表示	☒ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.228

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	- パワーモードがアクセサリモードのときに表示 - パワーモードがアクセサリモードのときに運転席のドアを開けると表示	クラッチペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 ENGINE START/STOP スイッチ P.108
	ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	ボンネットを完全に閉めてください。
	- 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 - エンジンが自動的に再始動したときに表示	アイドリングストップシステム P.156

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 (ホワイト)	バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップできないときに表示	- バッテリーが完全に充電されていても表示されることがあります。しばらく走行すると表示が消えます。 - バッテリーの充電後や、ジャンプスタートを行った後にこの表示が出た場合には、バッテリーの⊖端子を外し、もう一度バッテリーの⊖端子にケーブルを接続し、数分の間運転してください。 アイドリングストップシステム P.156
	エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	アイドリングストップシステム P.156
	エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	アイドリングストップシステム P.156

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	- クラッチペダルを踏み込まずに ENGINE START/STOP を押すとホワイトで表示 - アイドリングストップ中に、以下のような状態になるとホワイトで表示 - 窓ガラスが曇る可能性があるとき - 快適性が維持できないとき(エアコンが必要なとき) FRONT  スイッチを押したとき	クラッチペダルを踏み込んでください。
	- アイドリングストップ中に、以下の状態となったときにオレンジで表示 - シートベルトを着用していない - チェンジレバーが N 以外	クラッチペダルを踏み込み、シートベルトを着用してチェンジレバーを N にすると、アイドリングストップシステムが機能します。
	アイドリングストップ中に、クラッチを踏まずにチェンジレバーを N 以外に入れる则表示	チェンジレバーを N にしてください。  アイドリングストップをする P.157
	- アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 - ボンネットが開いている - アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	- ボンネットを閉めてください。 - エンジンを再始動してください。  エンジンの始動 P.149

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ハンドルのロックが解除されていないときに表示	ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
	エンジンオイルの交換時期が近づくと表示	早めのエンジンオイル交換をお奨めします。
	エンジンオイルの交換時期に表示	エンジンオイルを交換してください。 オイルモニターシステム P.182
	エンジンオイルの交換時期を過ぎると表示	ただちにエンジンオイルを交換してください。 オイルモニターシステム P.182
	アダプティブダンパーシステムに異常があるときに表示	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は **[H]** のマークにまで上がらない状態で走行します。

燃料計

アドバイス

燃料計が **[E]** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

水温計

水温計が **[H]** のマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。

ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。

🔧 オーバーヒート P.232

■ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

※ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数で燃料供給が停止されます。

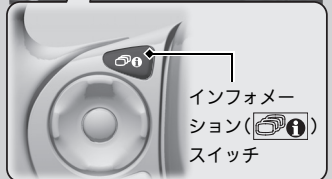
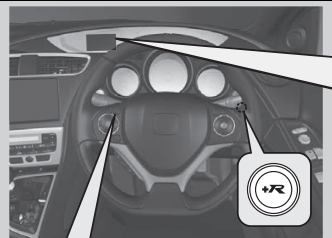
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。

また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

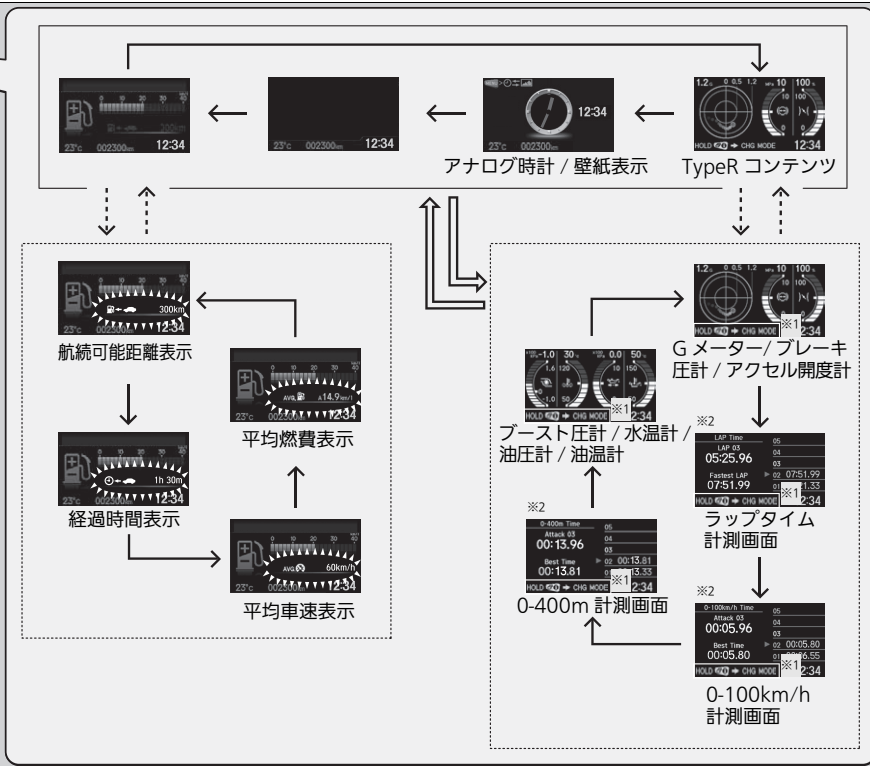
インフォメーション()スイッチを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



-  を押す
- >  を長押しする
- ⇒ +R を長押しする

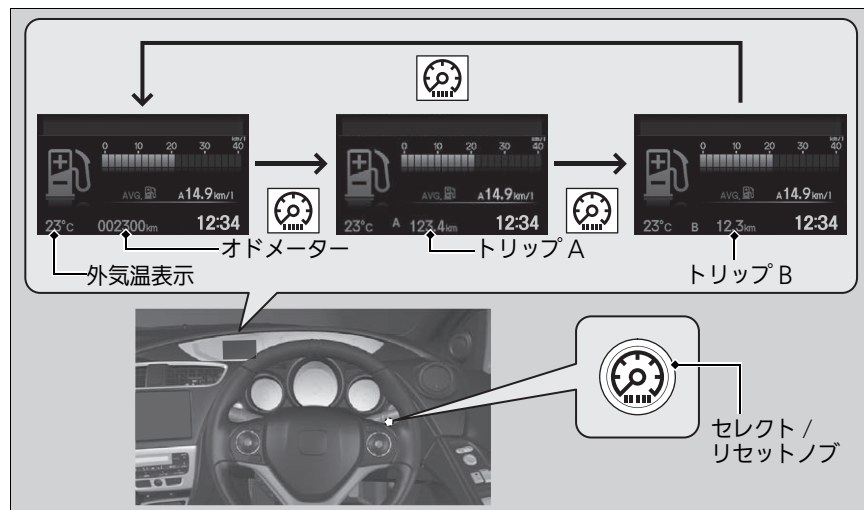
※1:  を長押しして画面の切り替えをしたときに表示されます

※2: 各タイム計測中は  (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチを押しても、他の計測画面は表示されません



■トリップコンピューター

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト/リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

❏ カスタマイズ機能 P.79

❏トリップメーター

トリップAとトリップBは、セレクト/リセットノブを押すか、またはマルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用して切り換えます。

❏ カスタマイズ機能 P.79

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

❏外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合、外気温低下メッセージが表示されます。

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

⌘平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

⌘ カスタマイズ機能 P.79

⌘ 表示の切り換えかた P.68

平均燃費表示、航続可能距離表示、経過時間表示、平均車速表示は、燃費表示画面で切り換えることができます。

⌘ 表示の切り換えかた P.68

⌘ カスタマイズ機能 P.79

⌘航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■ 経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

■ 平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

■ 時計

時刻を表示します。

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24 h /12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

🔧 時刻の設定 P.91

■ G メーター

走行時、車両にかかる荷重の強さ (G) と方向を表示します。

■ ブレーキ圧計

ブレーキ作動時のブレーキ圧を MPa で表示します。

🔧 経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.79

🔧 平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.79

■ アクセル開度計

アクセル開度を%で表示します。

■ ブースト圧計

ターボのブースト圧を kPa で表示します。

■ 水温計

水温を℃で表示します。

■ 油圧計

油圧を kPa で表示します。

■ 油温計

油温を℃で表示します。

この表示はオイルの温度を測定したものではないため、実際の温度と異なることがあります。

■ラップタイム計測



ラップタイムの計測および過去の計測値、最速ラップを表示します。

■ラップタイムの計測

1. (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチを押してラップタイム計測画面を表示します。
2. SOURCE スイッチを押すと計測が始まります。
3. 再度 SOURCE スイッチを押すと計測が止まります。
▶ 周回毎のラップタイムを計測するには、その都度 MENU スイッチを押します。

■履歴の確認 / 消去

- 履歴は 99 回まで残すことができ、5 回毎に画面表示します。
6 回目以降の履歴を確認するには、計測停止時に **+** または **-** スイッチを押して画面を移動します。
- 履歴を消去するには、計測停止時に MENU スイッチを長押しします。

LAP Time	05
LAP 03	04
05:25.96	03
Fastest LAP	▶ 02 07:51.99
07:51.99	01 08:21.33
	12:34

▶ラップタイム計測

この機能を使用して計測する場合は、安全な場所で行ってください。

ラップタイムは 00:00.00 - 99:59.99 まで表示することが可能です。
99:59.99 を超えた場合は 00:00.00 に表示が戻り、計測を続けます。

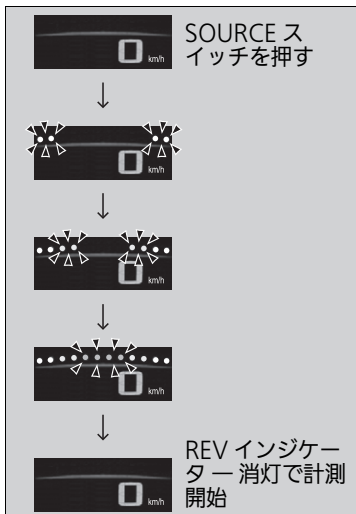
MENU スイッチを押してラップタイムを確定した時点、または計測を終了した時点で履歴として保存されます。

履歴の最速ラップには ▶ が表示されます。
計測中は該当ラップの数値がハイライト表示されます。

履歴は 99 回を超えると 1 回目から上書きします。

ラップタイム計測中は (ディスプレイ / インフォメーション) スイッチを押しても、0-100km/h タイム計測画面、0-400m タイム計測画面は表示されません。

0-100km/h タイム計測



0-100km/h タイムの計測および過去の計測値、ベストタイムを表示します。

0-100km/h タイムの計測

1. (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチを押して 0-100km/h タイム計測画面を表示します
2. SOURCE スイッチを押すと REV インジケータのカウンタダウが始まり、消灯すると計測が始まります。
▶ 車速が2km/h以上の場合、SOURCEスイッチを押しても REV インジケータは点灯しません。
3. 100km/h に到達、または SOURCE スイッチを押すと計測が止まります。

0-100km/h タイム計測

この機能を使用して計測する場合は、安全な場所で行ってください。

0-100km/hタイムは00:00.00 - 99:59.99まで表示することが可能です。
99:59.99 を超えた場合は 00:00.00 に表示が戻り、計測を続けます。

履歴の最速タイムには ▶ が表示されます。
計測中は該当タイムの数値がハイライト表示されます。

履歴は 99 回を超えると 1 回目から上書きします。

0-100km/h タイム計測中は (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチを押しても、ラップタイム計測画面、0-400m タイム計測画面は表示されません。

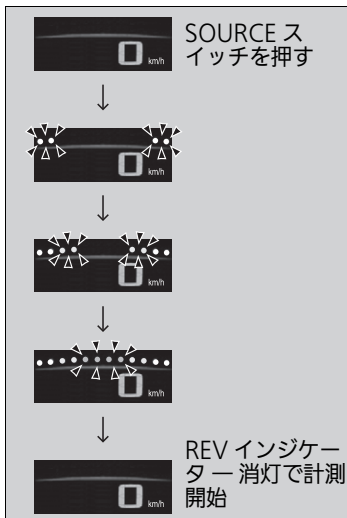
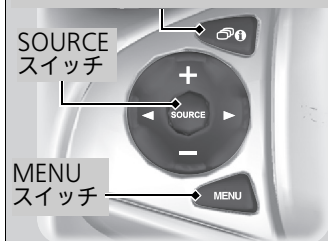


■履歴の確認 / 消去

- 履歴は 99 回まで残すことができ、5 回毎に画面表示します。
6 回目以降の履歴を確認するには、計測停止時に **+** または **-** スイッチを押して画面を移動します。
- 履歴を消去するには、計測停止時に MENU スイッチを長押しします。

0-400m タイム計測

 (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチ



0-400mタイムの計測および過去の計測値、ベストタイムを表示します。

0-400m タイムの計測

1.  (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチ押して 0-400m タイム計測画面を表示します。
2. SOURCE スイッチを押すと REV インジケータのカウンタダウが始まり、消灯すると計測が始まります。
▶ 車速が2km/h以上の場合、SOURCEスイッチを押しても REV インジケータは点灯しません。
3. 400m 地点に到達、または SOURCE スイッチを押すと計測が止まります。

0-400m タイム計測

この機能を使用して計測する場合は、安全な場所で行ってください。

0-400m タイムは 00:00.00 - 99:59.99 まで表示することが可能です。
99:59.99 を超えた場合は 00:00.00 に表示が戻り、計測を続けます。

履歴の最速タイムには ▶ が表示されます。
計測中は該当タイムの数値がハイライト表示されます。

履歴は 99 回を超えると 1 回目から上書きします。

0-400m タイム計測中は  (ディスプレイ / インフォメーション)スイッチを押しても、ラップタイム計測画面、0-100km/h タイム計測画面は表示されません。

0-400m Time	05
Attack 03	04
00:13.96	03
Best Time	02 00:13.81
00:13.81 ▶	01 00:13.33
	12:34

■履歴の確認 / 消去

- 履歴は 99 回まで残すことができ、5 回毎に画面表示します。
6 回目以降の履歴を確認するには、計測停止時に **+** または **-** スイッチを押して画面を移動します。
- 履歴を消去するには、計測停止時に MENU スイッチを長押しします。

カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

セットアップグループ	カスタマイズ機能	機能説明	選択できる設定内容
Odometer/ trip meter	Trip meter reset	トリップメーターのリセット	Trip A/Trip B
	Select trip/ odometer	オドメーター、トリップメーターA、トリップメーターB の切り換え	Odometer [※] /Trip A/Trip B
Select trip computer		瞬間燃費表示と同時に表示される機能の切り換え	Average fuel [※] /Range/Elapsed time/Average speed
Adjust clock		12 時間表示と 24 時間表示の切り換えおよび時間合わせ	12 h [※] /24 h
Vehicle information	Rear seatbelt information	—	—
	Maintenance info	オイルモニターシステムのリセット	No/Yes

※：工場出荷時の設定

セットアップ グループ	カスタマイズ機能	機能説明	選択できる設定内容
Speed alarm	Speed alarm setting	スピードアラームの表示 / 非表示切り換え と速度設定	Speed alarm 1 On/Off※
			Speed alarm 1 speed setting [50 km/h※]
			Speed alarm 2 On/Off※
			Speed alarm 2 speed setting [80 km/h※]
Customise settings	Deflation warning system	カスタマイズ機能の初期化設定	Cancel/Initialise

※：工場出荷時の設定

セットアップグループ	カスタマイズ機能	機能説明	選択できる設定内容
Customise settings	Display setup	Welcome screen	パワーモードを ON にしたときのウエルカムスクリーン表示 / 非表示の切り換え On*/Off
		Colour theme	MID 画面のカラーテーマ選択 Blue/Red*/Amber/Grey
		Keyless start guidance screens	パワーモードを切り換えたときの条件による Honda スマートキーシステムガイダンス表示 / 非表示の切り換え On*/Off
		Auto idle stop display	アイドリングストップディスプレイ表示 / 非表示の切り換え On*/Off
		Warning description	マルチインフォメーションディスプレイ警告メッセージの表示 / 非表示の切り換え On/Off*
		Language	マルチインフォメーションディスプレイ表示言語の選択 English*/German/Italian/French/Spanish/Portuguese/Dutch/Danish/Swedish/Norwegian/Finnish/Russian/Polish/Turkish/Czech/Hungarian/Slovakian/Estonian/Latvian/Lithuanian

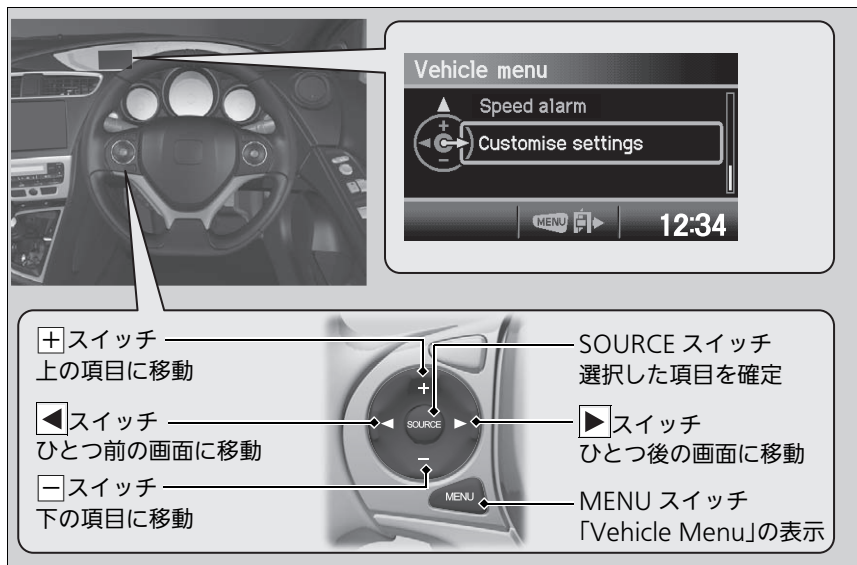
※：工場出荷時の設定

セッ​ト​ア​ッ​プ グ​ル​ー​プ	カ​ス​タ​マ​イ​ズ​機​能		機​能​説​明	選​択​で​き​る​設​定​内​容
Customise settings	Meter setup	Gear Position Display	ギヤポジション表示灯表示 / 非表示の切り換え	On*/Off
		REV. Indicators	REV インジケータ ー 表示 / 非表示の切り換え	On*/Off
	Trip computer setup	Adjust outside temp. display	外気温表示補正	-3° C ~ ±0° C* ~ +3° C
		Trip A reset trigger	TRIP A 自動リセットタイミング	With refuel/Manual only*/IGN Off
		Trip B reset trigger	TRIP B 自動リセットタイミング	With refuel/Manual only*/IGN Off
	Default all		初期化設定	Cancel Reset all defaults

※：工場出荷時の設定

カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードで、パーキングブレーキがかかっているときに、MENUスイッチを押して「Vehicle menu」を表示します。そして $\left[\begin{smallmatrix} + \\ \text{C} \\ - \end{smallmatrix} \right]$ または $\left[\begin{smallmatrix} \leftarrow \\ \text{C} \\ \rightarrow \end{smallmatrix} \right]$ スイッチを押して「Customise settings」を選択し、SOURCE スイッチを押して決定します。



カスタマイズのしかた

- カスタマイズ操作一覧 P.84
- カスタマイズ設定の例 P.88

■カスタマイズ操作一覧

MENU スイッチを押して切り換えます。

Vehicle menu

Odometer/trip meter



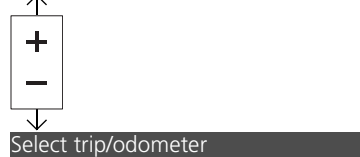
Select trip computer



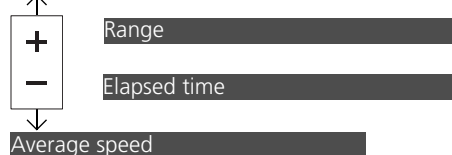
Adjust clock



Trip meter reset

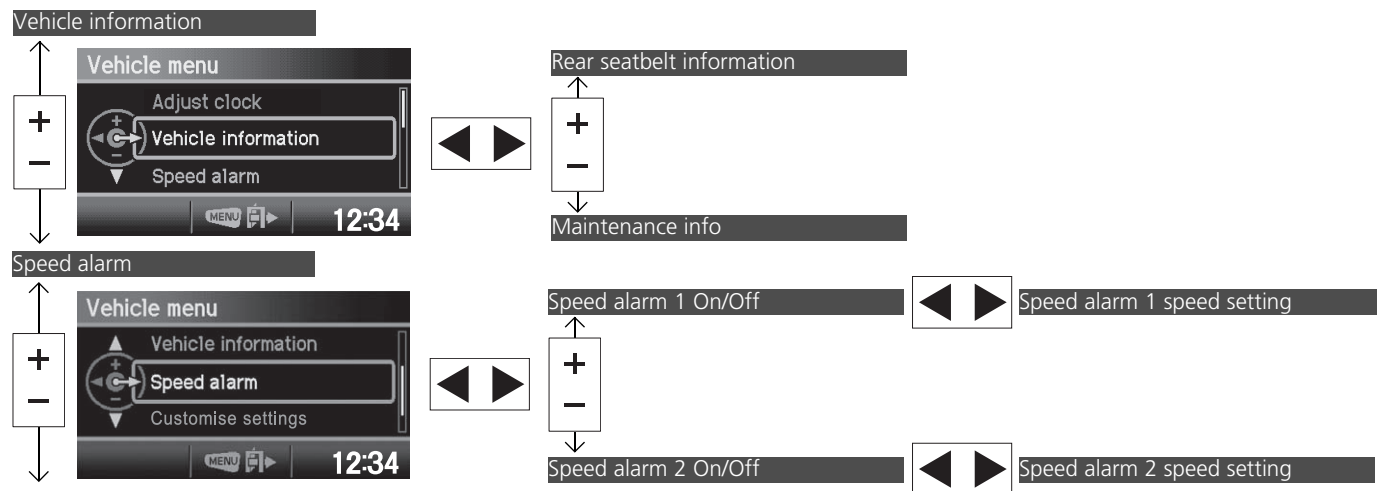


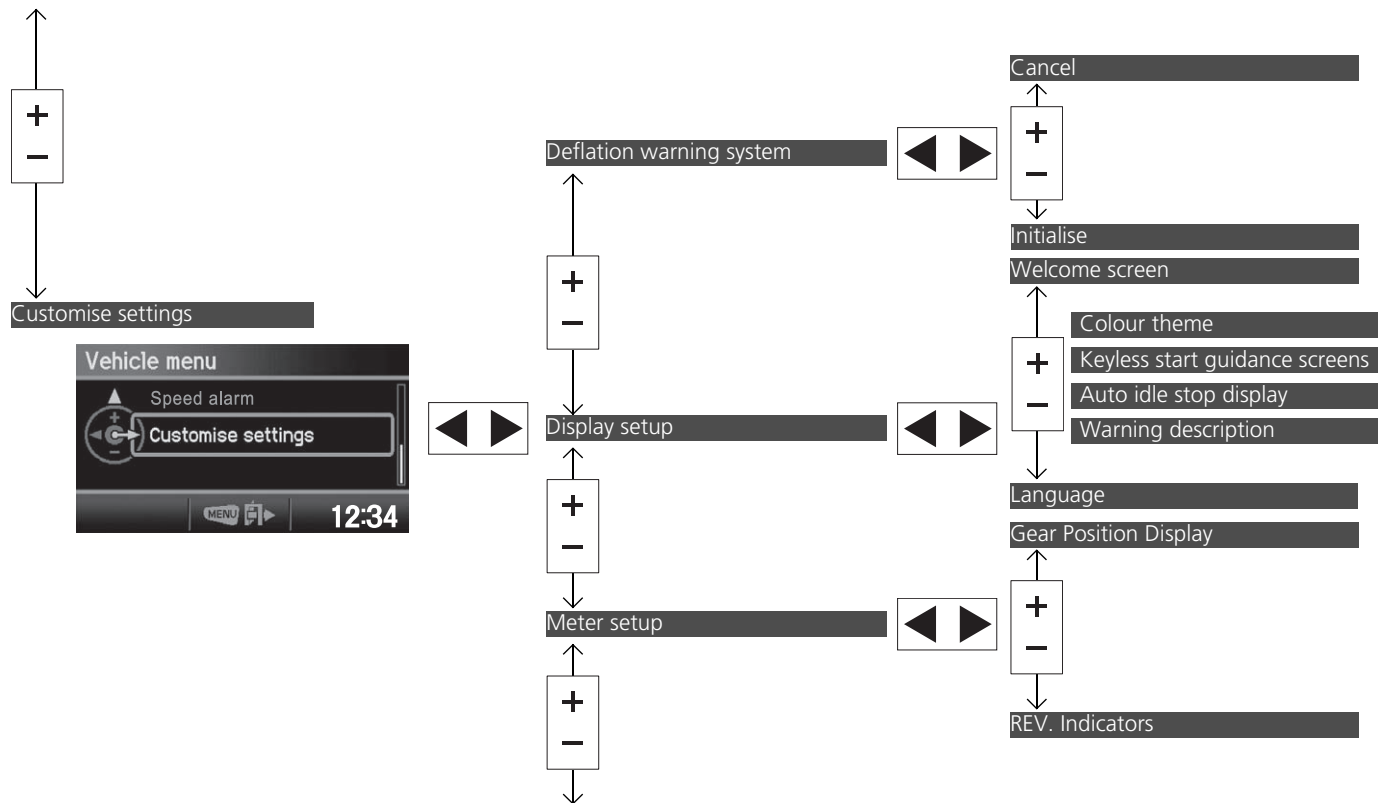
Average fuel

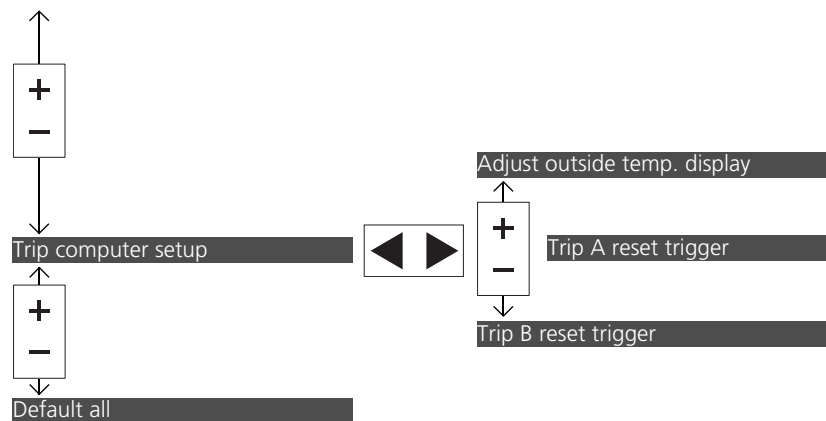


☒カスタマイズ操作一覧

MENU スイッチを押すことにより、カスタマイズ画面をいつでも終了することができます。



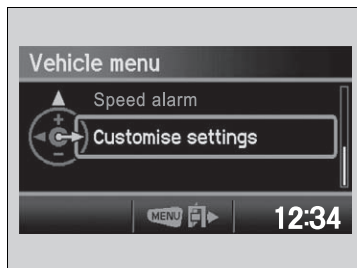




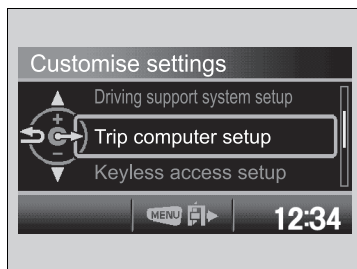
■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. MENU スイッチを押して「Vehicle menu」を表示する。
2. **+**/**-** スイッチを押して「Customise settings」を選択し SOURCE スイッチを押す。

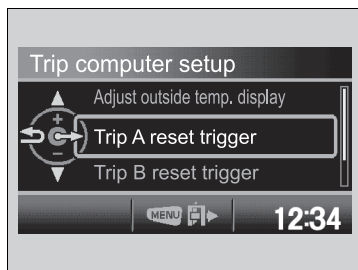


3. **+**/**-** スイッチを押して「Trip computer setup」を選択し SOURCE スイッチを押す。

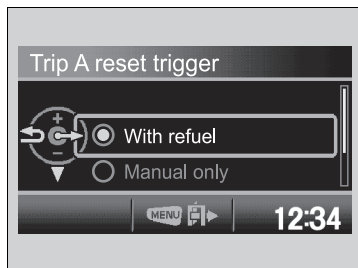
※カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする
- パーキングブレーキを戻す



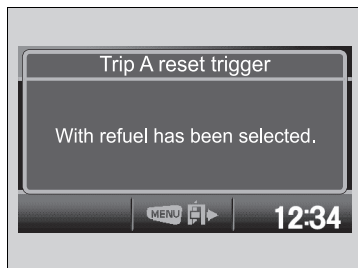
4. $\boxed{+}/\boxed{-}$ スイッチを押して「Trip A reset trigger」を選択し SOURCE スイッチを押す。



5. $\boxed{+}/\boxed{-}$ スイッチを押して「With refuel」を選択し SOURCE スイッチを押す。

▶ 「With refuel has been selected」という画面が表示された後、「Trip computer setup」画面に戻ります

6. MENUスイッチを押してカスタマイズ画面を終了する。



各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定.....	91
ドアの施錠と解錠	
キーの種類と機能.....	92
Honda スマートキーの微弱電波.....	94
車外でのドアの施錠 / 解錠.....	95
車内での施錠 / 解錠.....	99
衝撃感知ドアロック解除システム.....	100
チャイルドプルーフ.....	101
テールゲートの開閉	102
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム.....	104
セキュリティアラームシステム.....	104
ウィンドーの開閉	106

ハンドルまわりのスイッチ操作	
ENGINE START/STOP スイッチ.....	108
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	111
ライトスイッチ.....	112
フォグライト.....	113
ワイパー/ ウォッシャー.....	114
イルミネーションコントロール.....	116
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミ ラースイッチ.....	117
ハンドルの調節.....	117
ミラー類の調節	118

シートの調節	121
フロントシート.....	121
リヤシート.....	123
ヘッドレスト.....	125
室内灯 / 室内装備品	126
エアコン	
エアコンの吹き出し口.....	139
オートエアコンの使いかた.....	140
オートエアコンのセンサー.....	143

時計の時刻を合わせる

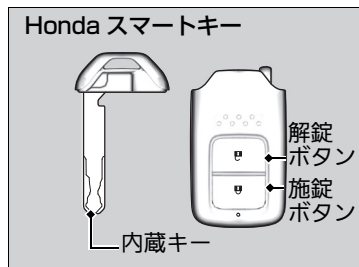
時計はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



1. MENU スイッチを押す。
2. /スイッチで「Adjust clock」を選択し、SOURCE スイッチを押す。
3. /スイッチを押して時計表示(24h / 12h)を切り換える。
4. /スイッチで時または分を選択する。
5. /スイッチを押して時刻を合わせる。
6. 選択を確定するには、/スイッチで 選択し、SOURCE スイッチを押す。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

■キーの種類と機能

キーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

■イモビライザーシステム P.104

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

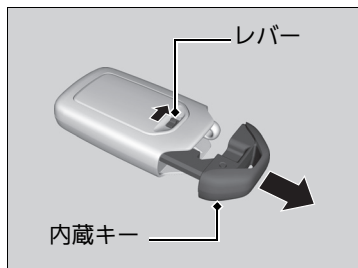
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー



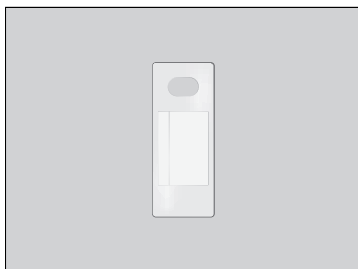
Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、カチッと音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

※ Honda スマートキー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.228

※ キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

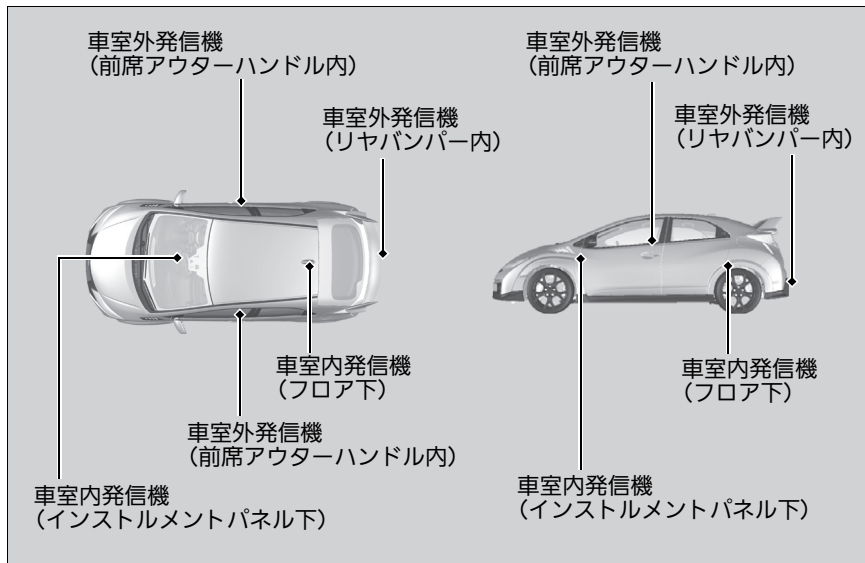
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▶▶Honda スマートキーの微弱電波

⚠ 注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

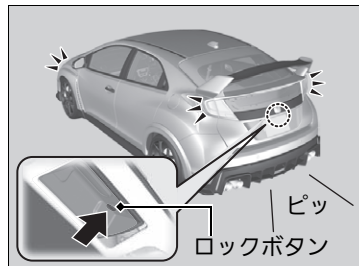
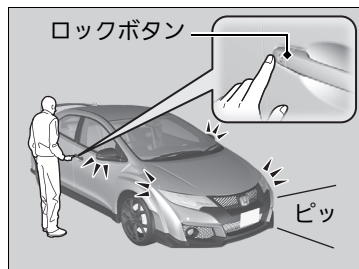
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。

ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

■施錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押します。

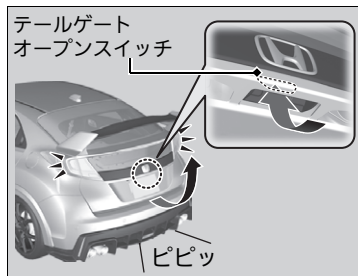
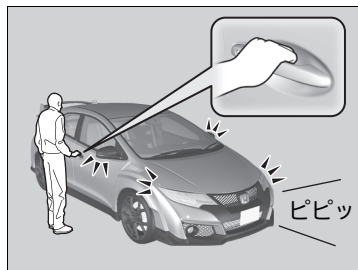
▶「ピッ」というアンサーバックが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

❖車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードがOFFモード以外のときはキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

❖Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかる、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバックが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

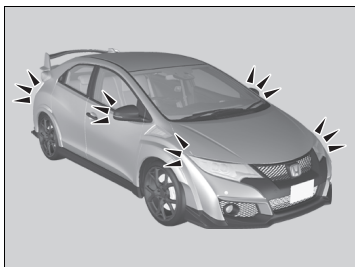
Hondaスマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

■ カスタマイズ機能 P.79

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーシステムで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

■室内灯 P.126

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケータが点灯しない場合は、電池切れです。

■電池交換のしかた P.204

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

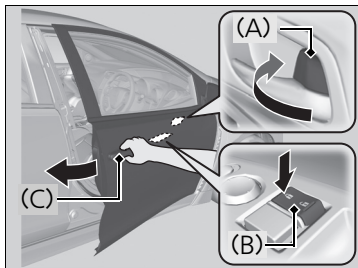


Honda スマートキーの電池がきれたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

❏ キーの種類と機能 P.92

内蔵キーを確実に差し込んで回します。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

❏キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

セキュリティシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

❏ セキュリティアラームシステム P.104

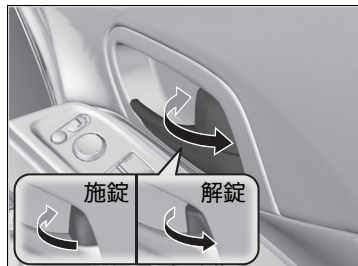
❏キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



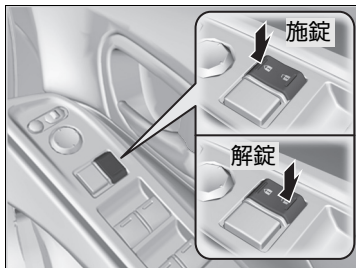
■ **施錠するには**
ノブを押し込みます。

■ **解錠するには**
ノブを引き出します。

※ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドブルーフ

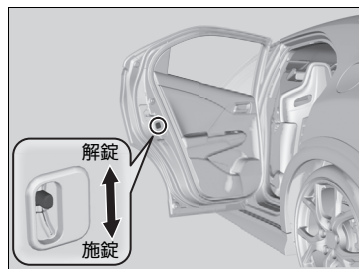
チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまを後席に乗せるときなどにお使いください。

※チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

■チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲートを閉めるとき

- Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

ⓘテールゲート開閉時の注意



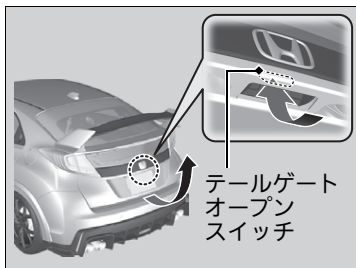
注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

※テールゲートを開ける

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠 P.95

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**ENGINE START/STOP** を押すときは、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

※セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを
停止させるまで、約 5 分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分以上作動する場合があります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON (表示灯点灯) にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⌘ パワーウィンドーの開閉

⚠ 警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

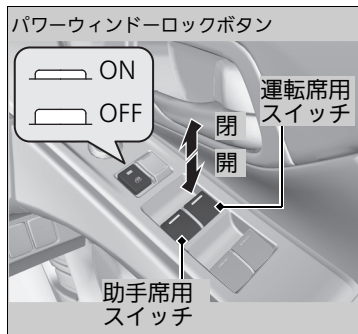
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

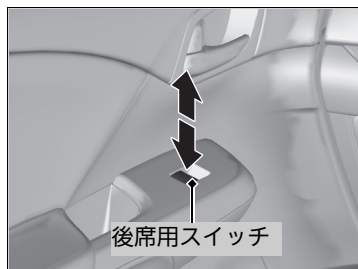
■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを押す

閉めるとき：スイッチを引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

▶▶ パワーウィンドーの開閉

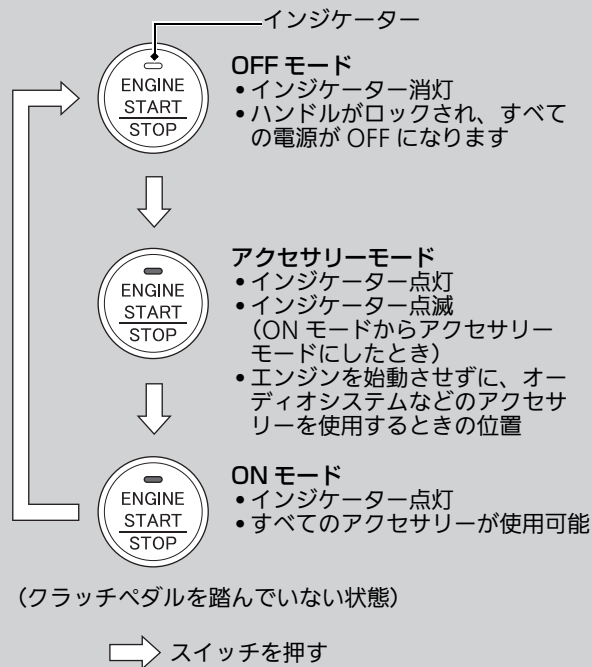
パワーモードを OFF にしても、約 10 分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。

この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

ENGINE START/STOP スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた



※ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

パワーモードが OFF モードからアクセサリモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。

■ パワーモードオートオフ機能

パワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。

ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

❏ ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき

P.228

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の2種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

※Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

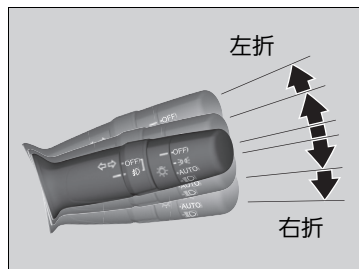
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

ライトスイッチ



-  車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
-  ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
-  パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

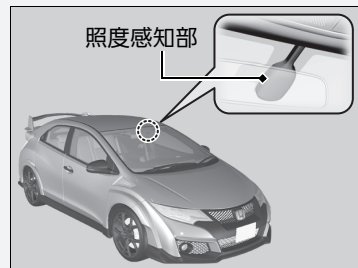
■表示灯 P.54

エンジンが止まっているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

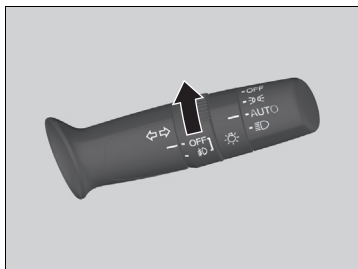
重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



フォグライト



ライトスイッチが**OFF**以外のとき(ライトスイッチを**AUTO**にしているときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

☒ フォグライト

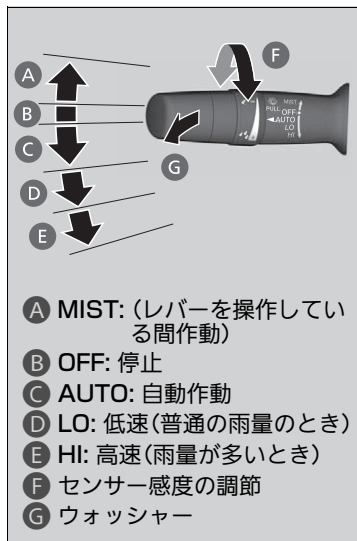
フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.54

ワイパー / ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ フロントワイパー / ウォッシャー



■ MIST

レバーを押しながら、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ (OFF、AUTO、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■ 自動作動

☑ オートワイパー P.115

■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

☒ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

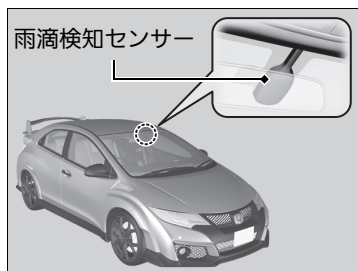
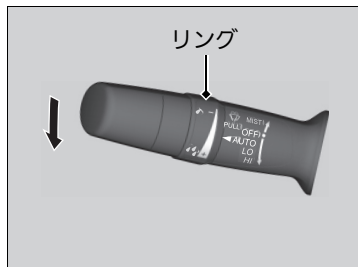
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めます。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。
間欠時間を短いほうにいっぱい回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

オートワイパー



レバーを **AUTO** の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。

■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



鈍感：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

⚠ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

パワーモードが ON モードでレバーが **AUTO** のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

ワイパー作動中に雪などがたまり続け、ワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール



パワーモードがON モードのとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

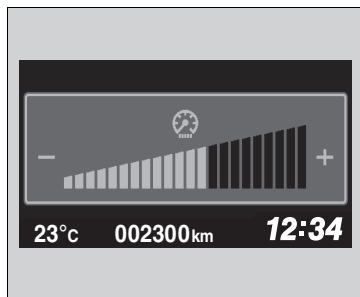
明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。



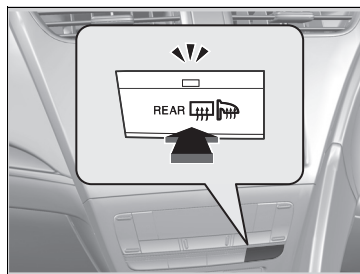
■イルミネーションコントロール

ライトスイッチが**OFF**以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさが調節できます。

- インストルメントパネル照明が減光しているときに目盛が全て表示されるまでノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。
- 車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまでセレクト / リセットノブを左に回すと、明るさが最小になります。このとき走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター/ヒートッドアミラースイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ヒートッドアミラースイッチ

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。

必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。

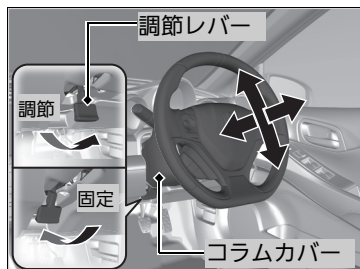
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 5℃以下の場合、ヒートッドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ハンドルの調節

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

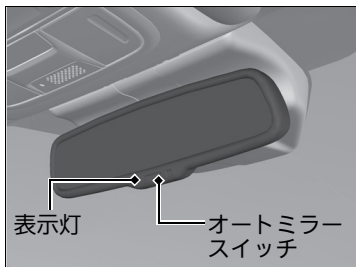
走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ON にすると表示灯が点灯します。

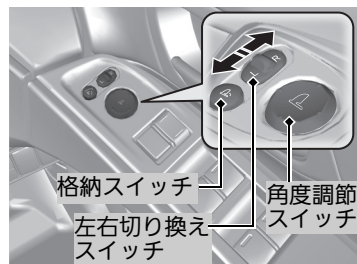
ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

自動式防眩ミラー

チェンジレバーを[R]に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

キーレスエントリーシステムでのドアミラーの格納

キーレスエントリーシステムを使用してドアミラーの格納が行えます。

格納するとき：

キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

元の位置に戻すとき：

キーレスエントリーシステムで解錠後、運転席ドアを開ける

パワーモードがON モードのときに、ドアミラーの操作を行うことができます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

■キーレスエントリーシステムでのドアミラーの格納

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、キーレスエントリー/Honda スマートキーでドアミラーを格納状態から、元の位置に戻せません。

■ Honda スマートキーでのドアミラーの格納

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドアミラーの格納が行えます。

格納するとき：

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押して施錠後、10 秒以内に再度、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押す

もとの位置に戻すとき：

運転席、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押して解錠後、運転席ドアを開ける

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。



※フロントシート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■フロントシートの調節

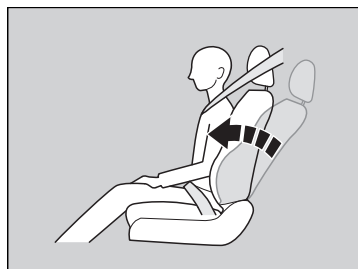


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

※フロントシートの調節

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

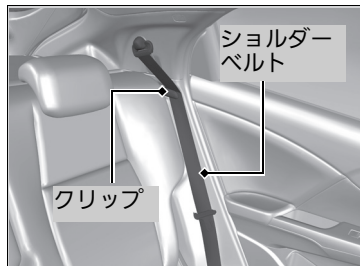
⚠ 注意

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 背もたれの倒しかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■ 倒しかた

1. 外側のショルダーベルトを両側のクリップでとめる。
2. ヘッドレストを一番下まで下げる。

※ 背もたれの倒しかた

⚠ 注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にもものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。



3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

※背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。

急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

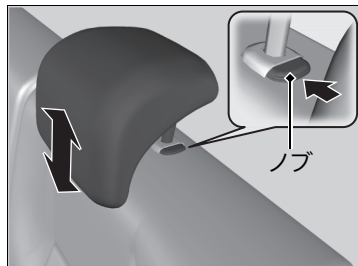
背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

背もたれを固定するときは、レバーのタブが下がりロックされるまで後ろに倒してください。

ヘッドレスト

■リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

※リヤシートヘッドレストの位置変更

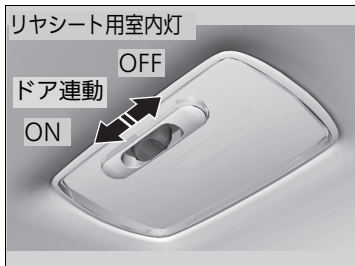


警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

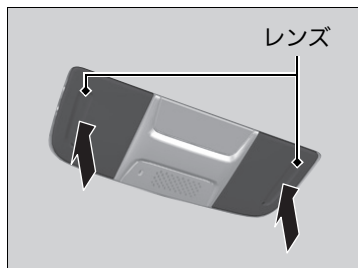
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

■ マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

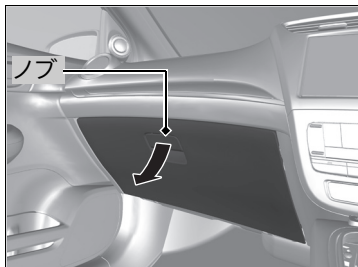
※ マップランプ

以下のときマップランプのレンズを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

室内装備品

■グローブボックス



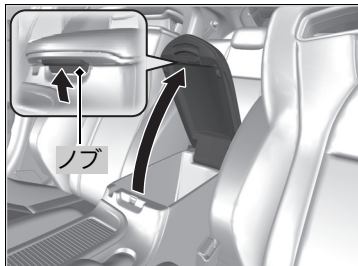
ノブを引くと開きます。

※グローブボックス



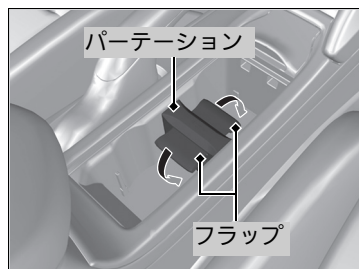
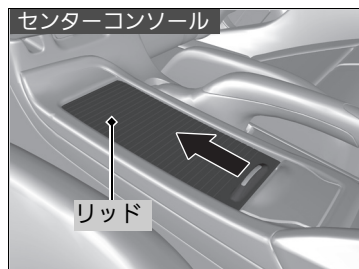
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

リッドを後ろ側にスライドさせます。

パーテーションを取り外してスペースを広くすることもできます。

1. 「カチッ」という音がするまでフラップを下に押し込みます。

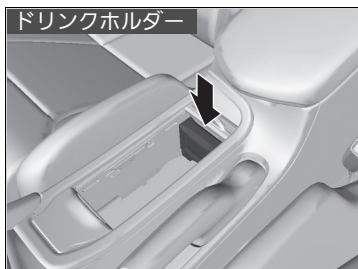
▶ フラップを開くときは、パーテーション上部を押してください。

※ドリンクホルダー

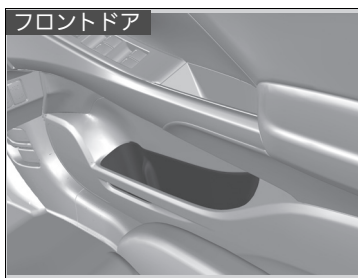
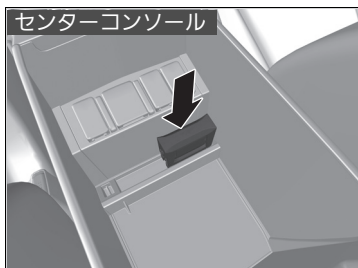
⚠ 注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

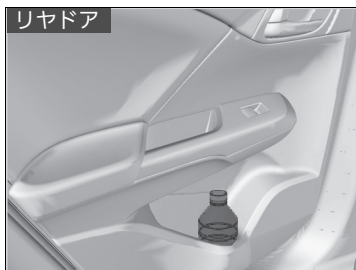
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



2. パーテーションを取り外し、収納します。



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

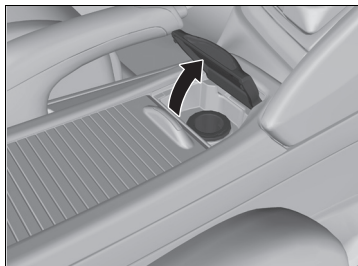


■リヤシート用ドリンクホルダー

運転席側と助手席側にあります。

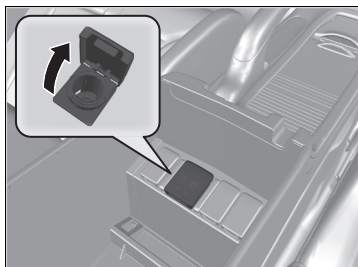
■ アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。



■ コンソールパネルのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。



■ コンソールコンパートメントのアクセサリーソケット

コンソールのリッドを開けてから、カバーを開けて使います。

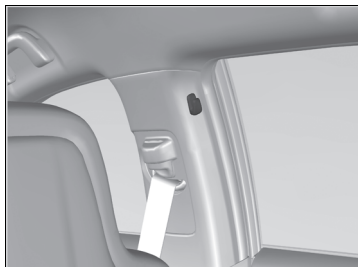
※ アクセサリーソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

■コートフック



両側のドアピラーに付いています。

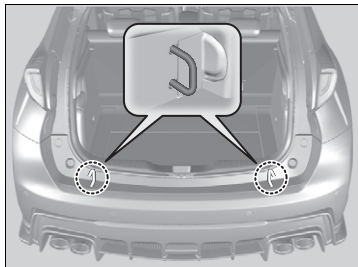
▶▶コートフック

⚠ 注意

コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

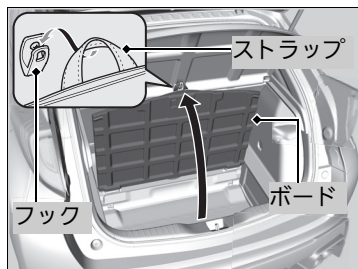
■ カーゴフック



カーゴスペースにあるカーゴフックにネットを取り付けて荷物を固定することができます。

■フロアボード

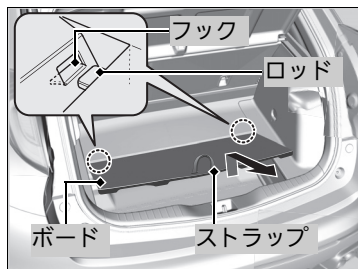
用途に応じて、フロアボードの取り付け位置を変えて使用することができます。



■ボードの下に収納するとき

ボードの下に荷物を収納することができます。

1. ストラップを引いてボードを開ける。
2. ストラップをフックにかける。



■ボードを下段にして使用するとき

背の高い荷物を載せるときに便利です。

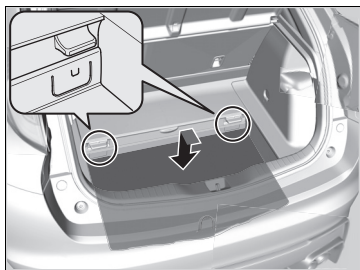
1. ストラップを引いてボードを開ける。
2. ボードを持ち、手前に引いてロッドをフックから外す。

※フロアボード

⚠ 注意

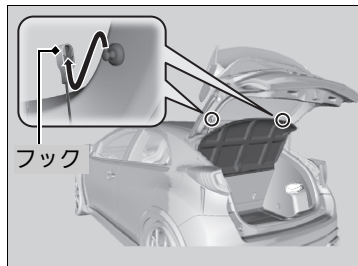
走行中は荷物の出し入れはしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。



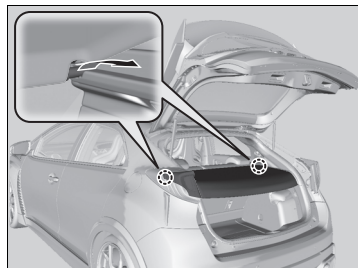
3. ボードを収納部の底に押し込む。

■ リヤシェルフ



■ リヤシェルフの取り外し

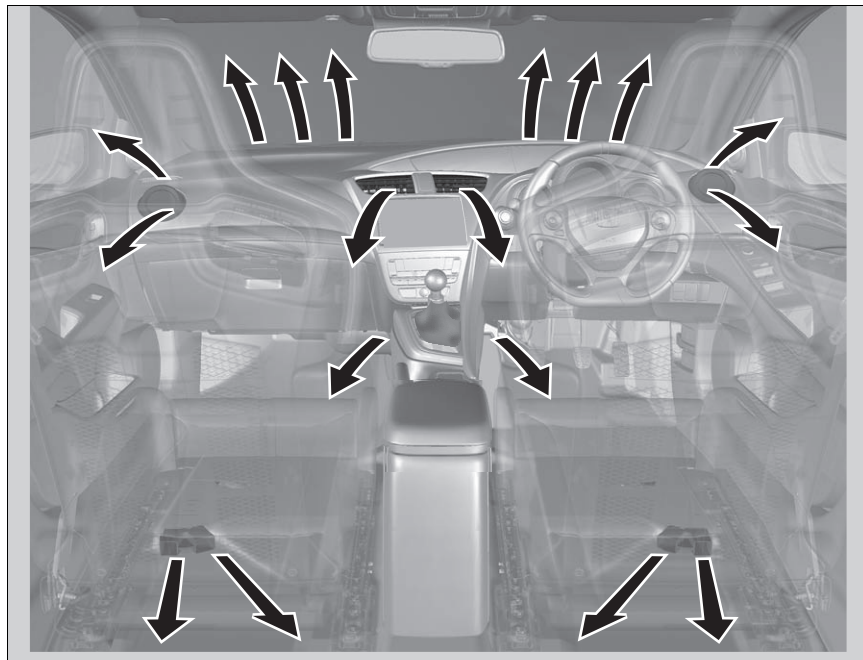
1. テールゲートを開けます。
2. フックを外します。
3. リヤシェルフを手前に引いてサポート
ロッドから外し、上に持ち上げて取り外
します。



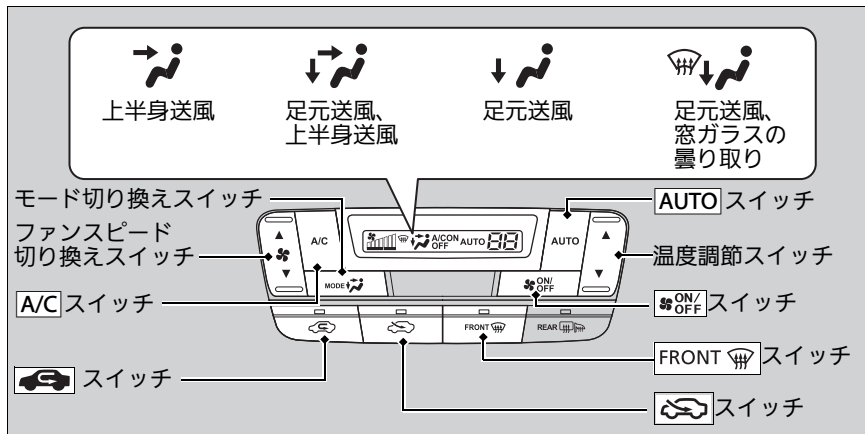
※ リヤシェルフ

リヤシェルフの上には物を置かないでください。後方視界を妨げたり、急ブレーキのときにリヤシェルフの上に置いた荷物が飛び出す恐れがあります。

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節スイッチを押して温度を調節する。
3. 停止するときには、**ON/OFF** を押す。

オートエアコンの使いかた

オート (AUTO) で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき **AUTO** の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

アイドリングストップ中は冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。

冷暖房機能を停止させたくないときは、**A** を押してアイドリングストップ機能を OFF にしてください。

■ **アイドリングストップシステム OFF** スイッチ
 ち P.156

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中にを押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

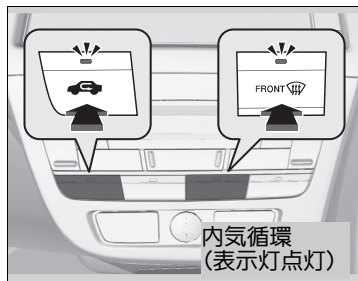
急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め（デフロスター）の使いかた



FRONT  を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT  をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■ 急速に霜を取りたいとき

1. **FRONT**  を押す。
2.  を押す。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

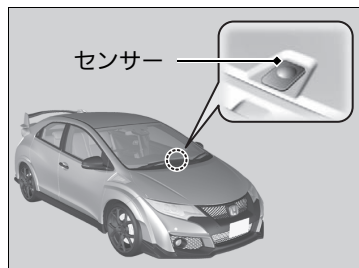
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

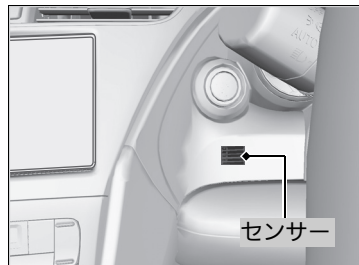
アイドリングストップ中に曇り止めを使うときは、以下の手順により、エンジンを自動的に再始動させてください。

1. チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にしていることを確認する。
2. クラッチペダルをいっばいに踏み込む。
3. ファンスピードを OFF 以外でモード切り換えダイヤルを **FRONT**  にする。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ



運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の前に..... 147

運転操作

エンジンの始動..... 149

走行時の注意点..... 151

シフト操作..... 154

アイドリングストップシステム..... 156

+R モード..... 161

クルーズコントロール..... 162

VSA(ビークルスタビリティアシスト) ... 165

アジャイルハンドリングアシスト..... 166

タイヤ空気圧警報システム(TPMS) ... 167

ブレーキ操作

ブレーキシステム..... 169

ABS(アンチロックブレーキシステム) .. 171

電子制御ブレーキアシスト..... 172

駐停車操作

駐車する..... 173

給油

指定燃料について..... 174

給油のしかた..... 174

ターボ車について

取り扱い..... 177

アクセサリーと改造..... 178



運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
 - 氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
■ **タイヤの点検と整備** P.199
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

※車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

※車内での確認項目

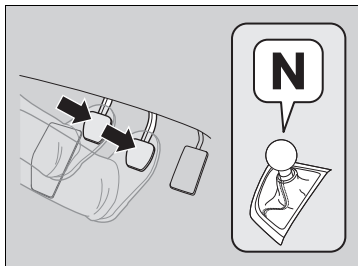
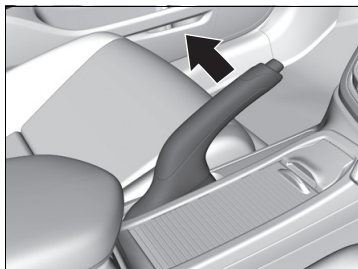
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
☒ **シートの調節** P.121
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
☒ **ミラー類の調節** P.118
☒ **ハンドルの調節** P.117
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
☒ **シートベルトの着用** P.23
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
☒ **車内での施錠 / 解錠** P.99
- エンジンかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
☒ **警告灯** P.48

エンジンの始動



1. パーキングブレーキをかける。

2. チェンジレバーが **N** (ニュートラル) であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。

▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

❖エンジンの始動

⚠ 警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

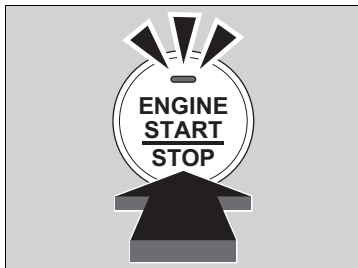
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。



3. アクセルペダルを踏まずに、
ENGINE START/STOP を押す。

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. チェンジレバーを **N** にする。
2. **ENGINE START/STOP** を押す。

■発進時の操作

エンストした後、約3秒以内にクラッチペダルをいっばいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

ただし、車両状態によっては、自動的に再始動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

■エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

■イモビライザーシステム P.104

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **ENGINE START/STOP** に触れてください。

■Honda スマートキーの電池が切れたとき P.228

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

■ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

※ その他の注意点

⚠ 注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

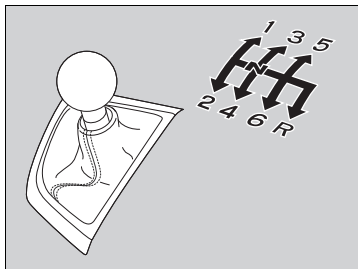
下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂からの平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車

シフト操作

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



※チェンジレバーの操作

アドバイス

車が完全に止まらないうちは **R** に入れないでください

トランスミッション破損の原因となります。

誤動作を防ぐため、一定車速以上では **R** へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

停車しても **R** に入らないときは、一度 **N** (ニュートラル) へ戻し、**1**、**2** 側へ倒してから **R** に入れてください。

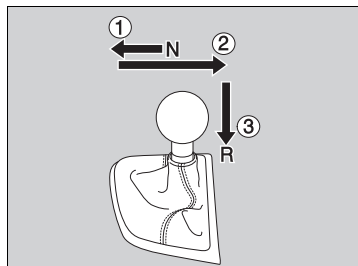
シフトダウンする際は、タコメーターのレッドゾーンに入らないように適切な車速で操作してください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

R に入らないとき

一度 **N** (ニュートラル) へ戻し、**1**、**2** 側へ倒してから **R** に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。



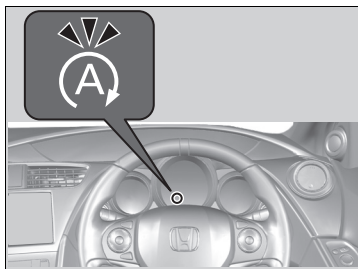
1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする。
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを **R** にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

R に入らないとき

この操作を毎回しないと **R** に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。



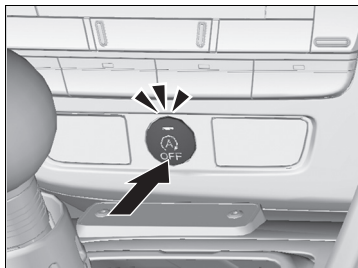
表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

❏ 警告灯 P.48

❏ 表示灯 P.54

❏ カスタマイズ機能 P.79

■アイドリングストップシステム OFF スイッチ



アイドリングストップシステムをOFFにするには、を押してください。スイッチ内の表示灯が点灯し、システムがOFF になります。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にON になります。

❏アイドリングストップシステム

車から離れるときは、エンジンを停止してください。

アイドリングストップシステム装備車に適合した専用バッテリーを使用しています。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は専用バッテリーを使用してください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

❏ 仕様 P.247

❏アイドリングストップシステム OFF スイッチ

アイドリングストップ中にを押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時に、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にします。その後、クラッチペダルから足を離すとアイドリングストップします。

▶ エンジンの自動再始動のため、停車時はチェンジレバーを **N** にしてください。

■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、3 km/h に達しないまま停車したとき
- チェンジレバーを **N** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
 - ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が -10℃ 以下のとき
- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
-  が ON のとき
- +R モードを ON にしたとき

※ アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、

ENGINE START/STOP でエンジンを再始動させてください。

▶ エンジンの始動 P.149

アイドリングストップ中に、

ENGINE START/STOP を押すと OFF モードになり自動で再始動しません。

通常のエンジンの始動操作をしてください。

▶ エンジンの始動 P.149

■アイドリングストップしないことがある条件

- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

■ エンジンが自動的に再始動する

クラッチペダルをいっばいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

■ クラッチペダルを踏まなくてもチェンジレバーが **[N]** (ニュートラル) の位置で、エンジンが自動的に再始動する条件

- を押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- +R モードを OFF から ON にしたとき

※ エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップシステムに異常があるときは再始動ができません。

通常のエンジン始動操作をしてください。

※ エンジンの始動 P.149

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

アイドリングストップ中に、以下の操作をすると、エンジンが自動で再始動しません。

- 運転者がシートベルトを外す
アイドリングストップを継続させるには、すぐにシートベルトを着用してください。
- チェンジレバーを **[N]** 以外に動かす
チェンジレバーを **[N]** に戻してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.59

システムが停止した場合、通常のエンジンの始動操作をしてください。

※ エンジンの始動 P.149

■ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき

クラッチペダルをいっぱいに踏んでください。

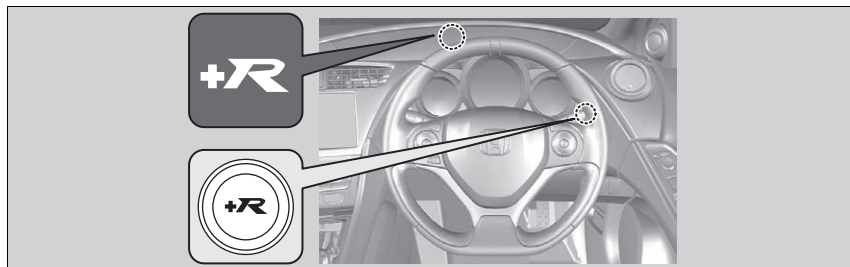
- ▶ エンジンが自動的に再始動します。

☒ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき

以下のような状態になると、表示灯が点滅します。

- 窓ガラスが曇る可能性があるとき
- 快適性が維持できないとき(エアコンが必要なとき)
- を押したとき

+R モード



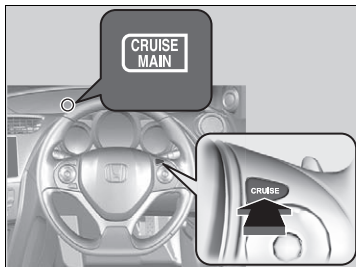
+R スイッチを押すと +R モードを ON または OFF することができます。

+R モードはエンジン、サスペンション、EPS(電動パワーステアリング)システム、VSA(ビークルスタビリティアシスト)の作動を調整して軽快に走行することができます。

❑ マルチインフォメーションディスプレイ P.67

クルーズコントロール

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。



ハンドルの **CRUISE** スイッチを押すとメーターの **CRUISE MAIN** が点灯し、クルーズコントロールが ON になります。

- 使用できるシフトポジション：2 速以上
- 使用できる車速：約 30 ～ 100km/h の範囲の希望値

⚠ クルーズコントロール

⚠ 警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**

道路状況に合った速度で走行できません。

- **急な下り坂のある道路**

エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**

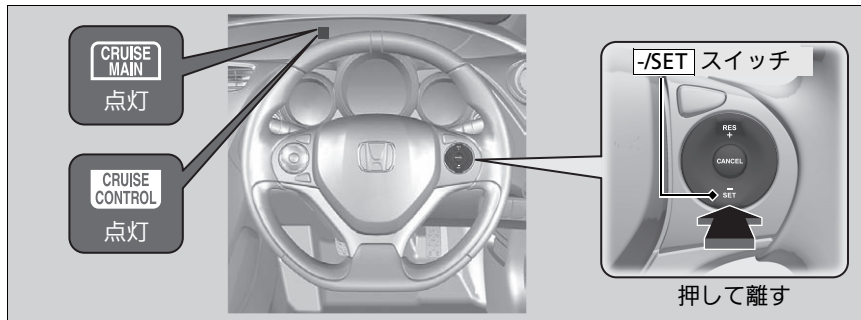
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

エンジン回転数下がったときは、シフトダウンをしてください。
クラッチペダルを踏んでから5秒以内にシフトチェンジすれば、設定した車速を維持できます。

車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**-/SET** を押します。
-/SET を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。
 同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が点灯します。

※車速をセットするには

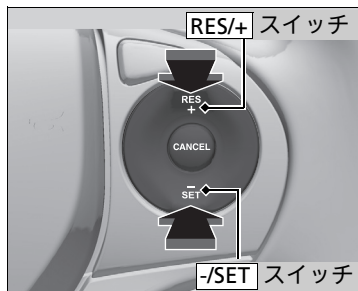
自動定速走行をしないとき

安全のため **CRUISE** を押して OFF にしてください。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにすると、クルーズコントロールは自動的に OFF になります。

車速を調節するには

手元の **RES/+** と **-/SET** の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



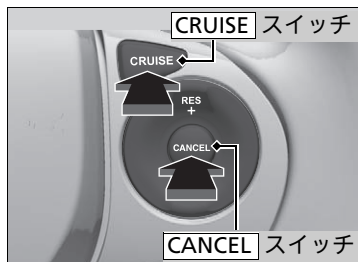
RES/+ スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

-/SET スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

解除するには



次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が30km/h未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

以下の場合、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 車速が25km/h以下になったとき
- 5秒間以上クラッチペダルを踏み続けたとき
- チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にしたとき

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ▢ P.171

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

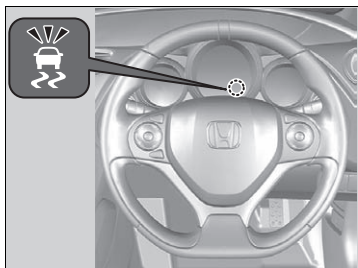
■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

▢ 電子制御ブレーキアシスト P.172

VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

▢ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にするとエンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

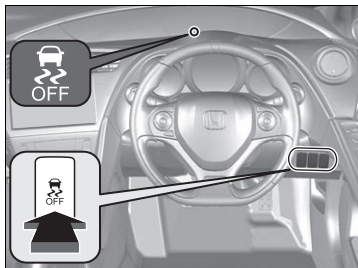
新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

VSA が停止状態になり VSA OFF 警告灯が点灯します。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、駆動輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とするシステムです。

■ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

VSA を OFF にした場合でも、タイヤ空気圧警報システム(TPMS)がタイヤ空気圧の低下を検知すると、自動的に ON になります。

■ アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させるシステムではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

システム作動中に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤ空気圧警報システム (TPMS)

タイヤ空気圧警報システムとは、各車輪の回転半径と回転特性を比較し、運転中の各タイヤ空気圧を推定することで、タイヤ空気圧の低下がないかを検知します。

タイヤ空気圧の低下を検知すると、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化

以下のような場合、タイヤ空気圧警報システムを初期化する必要があります。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤをローテーションしたとき
- タイヤを交換したとき

タイヤ空気圧警報システムを初期化する前に、すべてのタイヤが冷えていることを確認してください。

以下の車両状態を確認してください。

- 車両が完全に停止している
- パーキングブレーキをかけている
- パワーシステムを ON にしている

■ タイヤ空気圧警報システム (TPMS)

停車または低速で走行しているときに、タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧を検知しません。

外気温が低いときや気圧の変化があるようなタイヤの空気圧に直接影響がある状況によっては、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯する場合があります。

■ **タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した P.236**

タイヤ空気圧の変化について：

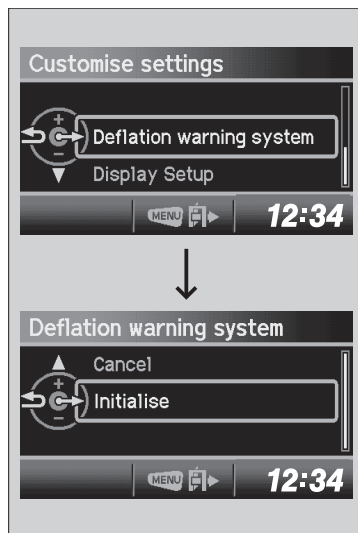
- 気温が高くなると、空気圧は高くなります。
 - 気温が低くなると、空気圧は低くなります。
- タイヤ空気圧警報システム警告灯は、指定より高いタイヤ空気圧になっても点灯しません。

タイヤ空気圧警報システムが正常に機能しないことがあるので、タイヤを交換する場合は、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使用してください。

■ **タイヤの点検と整備 P.199**

以下のときは、タイヤ空気圧警報システム警告灯が遅れて点灯、または点灯しないことがあります。

- 急加速、急減速、または急なハンドル操作をしたとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき



マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能からシステムを初期化することができます。

1. MENU スイッチを押す。
2. **+** または **-** スイッチを押して、「Customise settings」を選択する。
3. **+** または **-** スイッチを押して、「Deflation warning system」を選択する。
4. **+** または **-** スイッチを押して「Initialise」を選択する。
5. **-** スイッチを押して「Yes」を選択し、SOURCE スイッチを押す。
▶ キャンセルするときは「No」を選択し、SOURCE スイッチを押します。

- マルチインフォメーションディスプレイは、通常の画面に戻ります。
- 初期化が自動的に終了します。

⌘ タイヤ空気圧警報システム (TPMS)

以下のときは、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯することがあります。

- 凸凹路を走行しているとき
- 初期化には、40～100km/h で約30分の走行が必要です。
- パワーシステムを ON にして、車両が45秒以内に動かない場合、タイヤ空気圧警告灯が一時的に点灯することがあります。これは初期化がまだ完了していないことを示しており、異常ではありません。

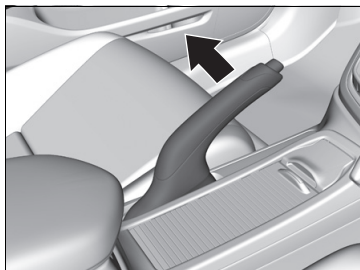
初期化したあとでもタイヤ空気圧警告灯が点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使用してください。詳しくは、Honda 販売店にご相談ください。

ブレーキシステム

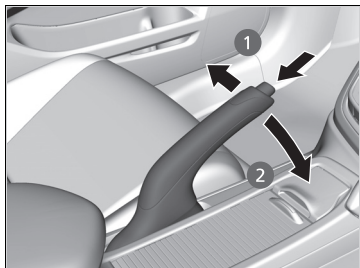
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱい引く。



■パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

▶パーキングブレーキ

■アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、「パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー」が鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。

停車したときも、ブザーは止まります。

マルチインフォメーションディスプレイに「RELEASE PARKING BRAKE」と表示が出ます。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ 電子制御ブレーキアシスト P.172

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➡ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.171

■ブレーキ鳴き

ブレーキをかけた時、ブレーキの鳴きが発生する事がありますが、高性能ブレーキシステムの特徴であり、故障ではありません。

※フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

❖ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.165

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. チェンジレバーを[R]または[1]に入れる。
4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

❏駐停車操作

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

❏駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

指定燃料について

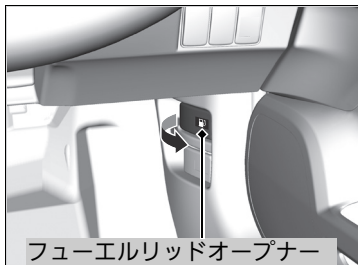
■指定燃料

無鉛プレミアムガソリン

■タンク容量

50 リットル

給油のしかた



フューエルリッドオープナー

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

※指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンが入手できない場合にはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、エンジンの性能を十分に発揮できません。さらにエンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだ時に、異音が聞こえることがあります。

※給油のしかた

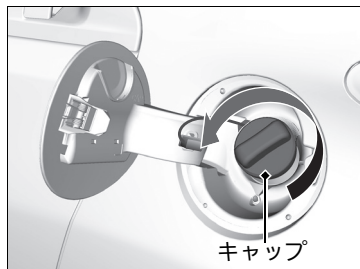
⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

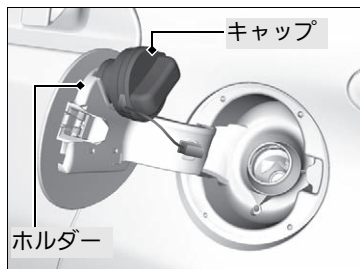
「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
 - ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
 - ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

※給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない

- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 °C 以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。

■ オイルモニターシステム P.182

■ 推奨エンジンオイル P.247

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると高水温警告灯が点滅または点灯することがありますが、機能的に問題はありません。

約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行すると警告灯は消灯します。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	180
メンテナンスを安全に行うために	181
メンテナンスに関する注意事項	181
オイルモニターシステム	
オイルモニターシステムの表示	182
エンジンルーム内のメンテナンス	
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ...	185
ボンネットを開ける	186
推奨エンジンオイル	187
ウィンドウォッシャー液の補給	187
電球の交換	188
ワイパーブレードラバーの点検と整備	197

タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	199
タイヤとホイールの交換	201
タイヤのローテーション	202
冬期のタイヤ	203
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	204
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター	206

清掃	
車内の清掃	209
車外の清掃	211

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。

車についての安全事項

- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

メンテナンスに関する注意事項

メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

⚠メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

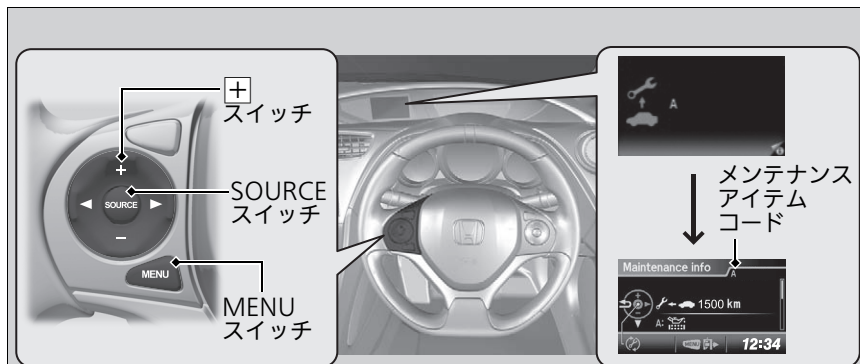
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

オイルモニターシステム

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。メッセージが表示されたときは、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示

1. パワーモードを ON モードにする
2. MENU スイッチを押して、「Vehicle menu」画面に移動する。
3. **+** スイッチを押して「Vehicle information」選択し、SOURCE スイッチを押す。
4. 再度 SOURCE スイッチを押して、「Maintenance info」画面を表示させる。
 - ▶ マルチインフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されます。



インフォメーション表示灯 **i** がオイルモニターシステム情報と同時に点灯します。

オイルモニターシステムの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

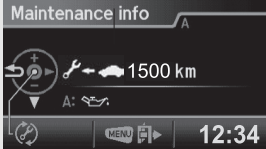
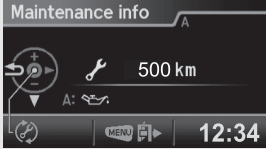
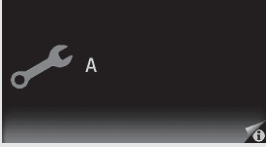
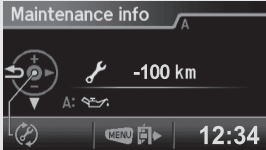
メンテナンスアイテムコードは、以下の項目についてのメンテナンスを指しています。

A：エンジンオイル交換

B：エンジンオイル、オイルフィルター交換

残距離表示が十分残っていても前回のオイル交換から1年が経過していたらメンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイのオイルモニターシステム情報

警告表示	オイルモニターシステム情報	説明	情報
		メンテナンス時期までの走行距離が 1,500km 未満になったとき	メンテナンス時期が近くなっています。
		メンテナンス時期までの走行距離が 500km 未満になったとき	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎている項目があるとき	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。



1. パワーモードを ON モードにする。
2. 「Maintenance info」を選択する。
■ オイルモニターシステムの表示 P.182
3. SOURCE スイッチを押す。
 ▶ オイルモニターシステム情報のリセット画面が表示されます。
4.  スイッチを押して「Yes」を選択し、SOURCE スイッチを押す。
 ▶ メンテナンスアイテムコードがリセットされます。
 ▶ キャンセルするときは「No」を選択し、SOURCE スイッチを押します。

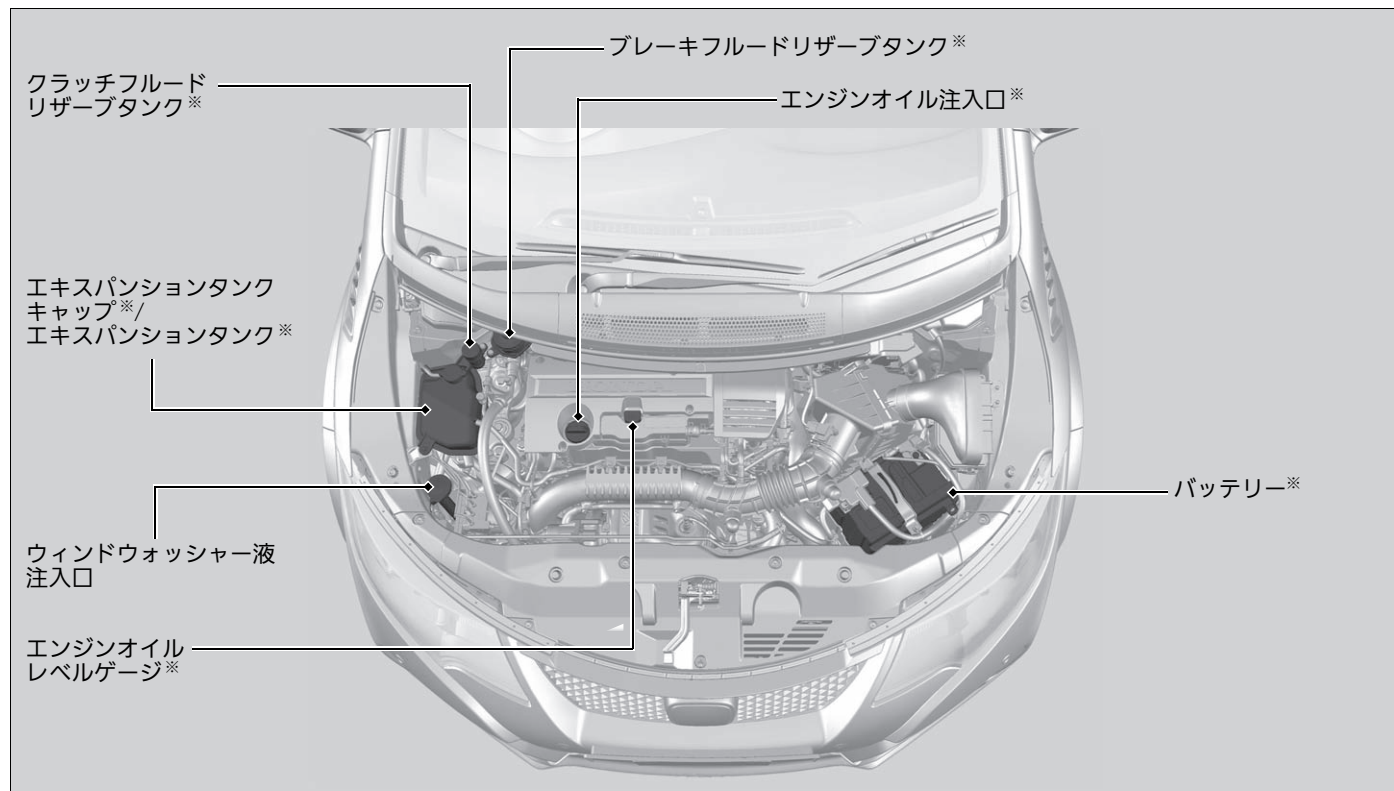
※リセットのしかた

アドバイス

メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

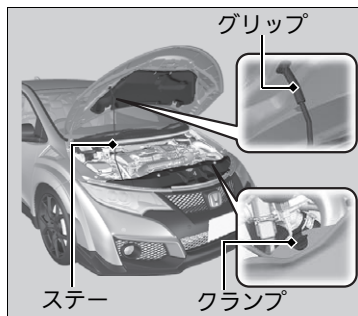
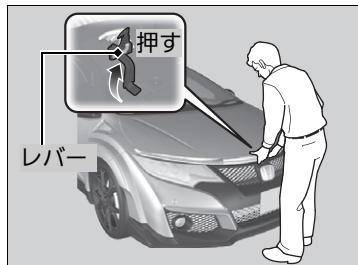
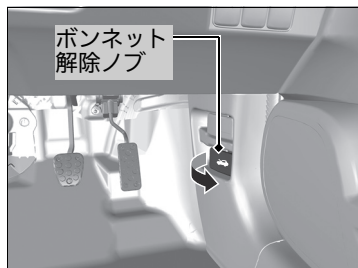
エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



推奨エンジンオイル：

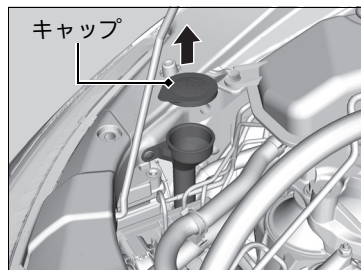
Honda 純正エンジンオイル

☑ Honda 純正エンジンオイル P.247

API SM または SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

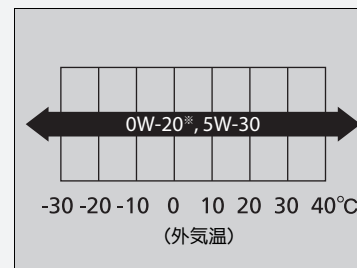
ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

☑ 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合、早めに交換してください。

☑ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

電球の交換

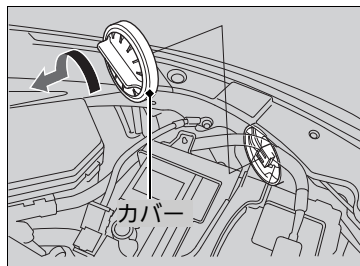
ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

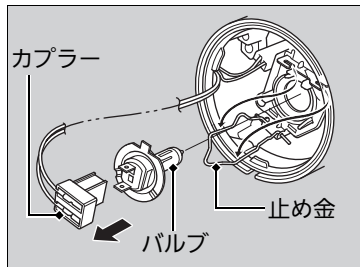
ハイビームヘッドライト : 12V-55W

ロービームヘッドライト : LED

■ハイビームヘッドライト



1. カバーを左に回して取り外す。



2. 止め金を外し、カプラーを抜き取る。

3. 古い電球を取り外し、新しい電球を取り付ける。

■ロービームヘッドライト

ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換は、Honda 販売店に依頼してください。

※ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

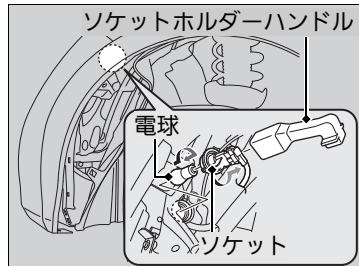
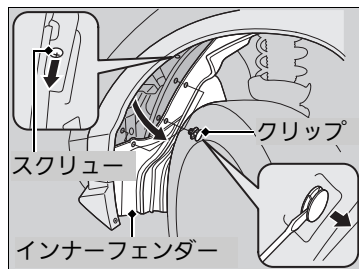
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

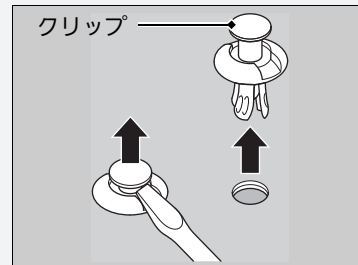
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)



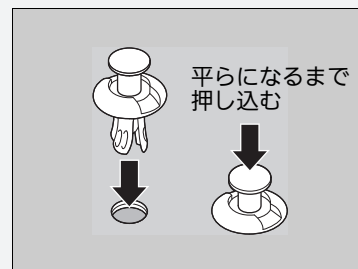
1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱい
に切る。
右側：ハンドルを左に切る
左側：ハンドルを右に切る
2. スクリューとクリップを外し、インナー
フェンダーをめくる。
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を
抜き取る。
▶ ソケットを取り外せないときは、ソ
ケットホルダーハンドルを使います。
❏ 工具の種類 P.215
▶ ソケットホルダーハンドルが車両に格
納されていない場合は、Honda 販売店
で交換してください。
4. 新しい電球を差し込む。

❏ 前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

クリップを外すときは、マイナスドライバー
を差し込んで、中央部のピンを起こして取り
外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央
部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平
らになるまで押してください。



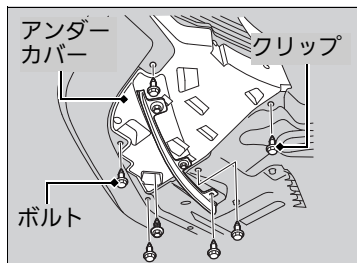
車幅灯電球

車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

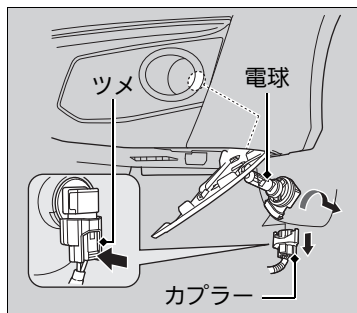
フォグライト：12V-55W



1. ボルトを外す。
2. アンダーカバーを下げ、クリップを取り外す。

■ 前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

P.189



3. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、取り付け。

■ フォグライト電球

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

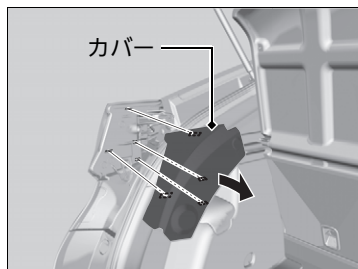
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

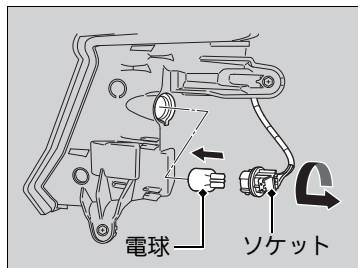
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 : 12V-16W(橙色)



1. テールゲートを開ける。
2. カバーを外す

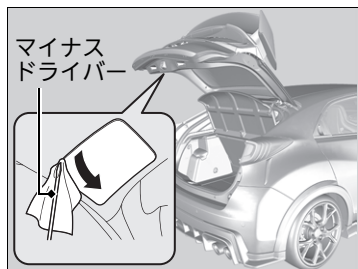


3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

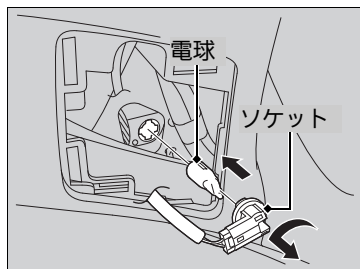
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯 : 12V-16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

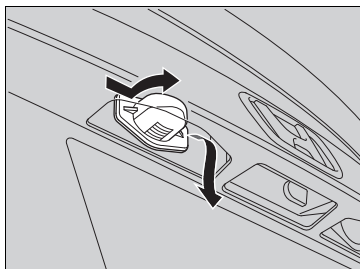


2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

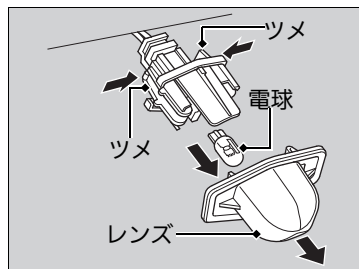
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯 : 12V-5W



1. 右方向にレンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してレンズを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

ハイマウントストップランプ電球

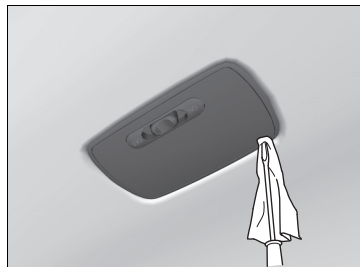
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

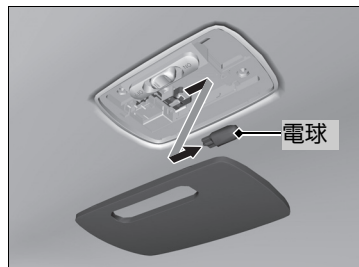
室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

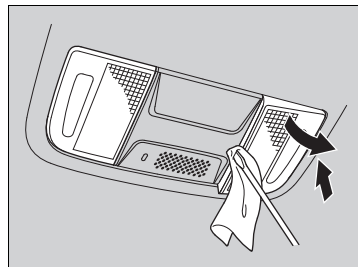


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

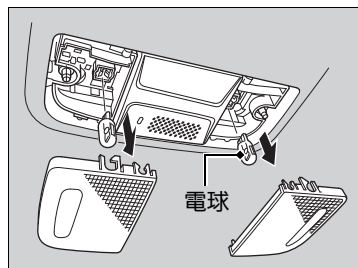
マップランプ

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

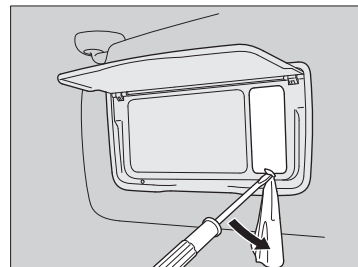


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

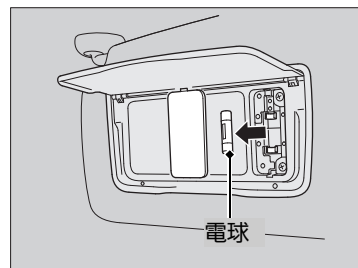
バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V-2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

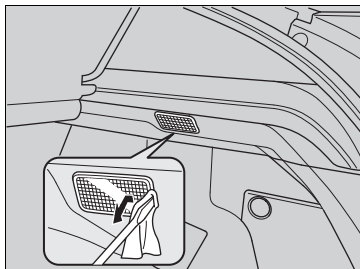


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ カーゴスペース照明灯電球

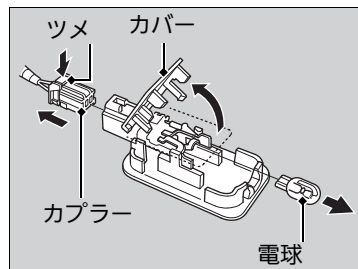
下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯：12V-5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. カプラーを外す。
▶ カプラーは、ツメを押しながら外します。
3. カバーを上押し上げる。
4. 古い電球を抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。
6. カプラーを押し込み、取り付ける。

ワイパーブレードドラバーの点検と整備

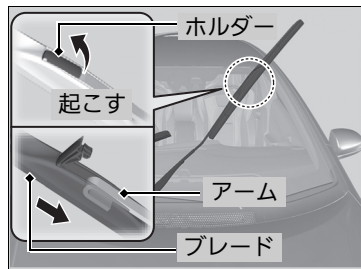
ワイパーブレードドラバーの点検

ワイパーブレードドラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードドラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードドラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



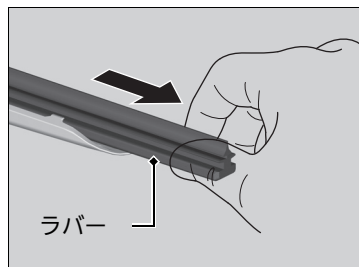
2. ホルダーを起こす。
3. ブレードをスライドさせ、アームから取り外す。

※フロントワイパーブレードドラバーの交換

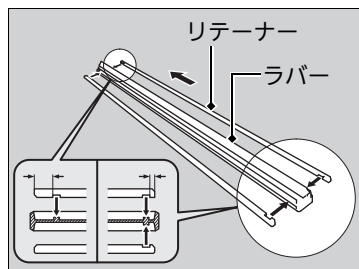
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

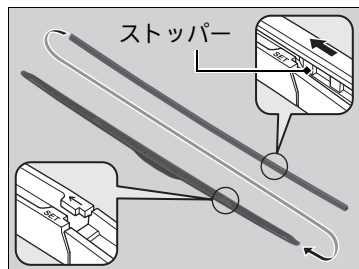
ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ ラバーの突起部とリテーナーの溝を正しく合わせてください。



6. ラバーをストッパーがない側からブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーのストッパーがブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
7. その後、ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じます。
8. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

※タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

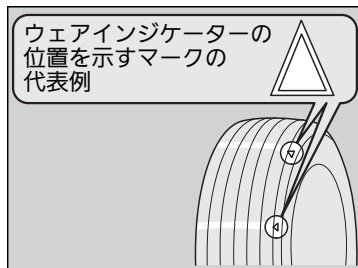
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

🔧 仕様 P.247

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

🔧 タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元がない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠️ タイヤとホイールの交換



警告

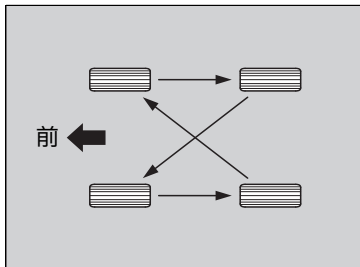
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

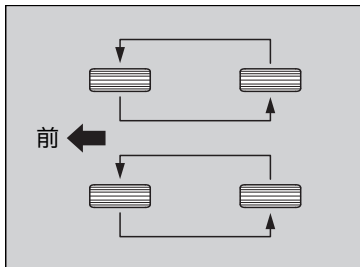
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

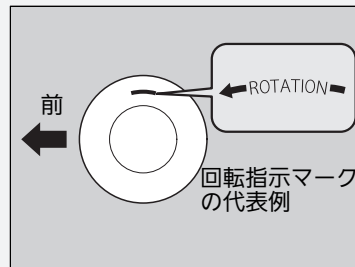
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

127 N・m (13 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

タイヤチェーンは使用できません。

タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

❖冬期のタイヤ

純正タイヤはハイグリップタイヤを装備しています。

外気温度が約7℃以下のときは、制動力の低下など本来の性能を発揮できません。

外気温が -20℃以下のときは純正タイヤを使用しない。

タイヤの表面(トレッド)に、ヒビ割れなど損傷を負う可能性があります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

※ 電池交換のしかた



注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

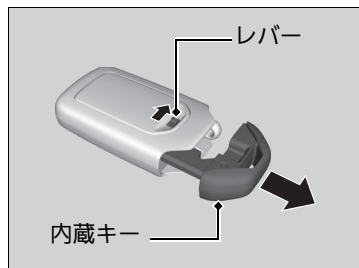
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

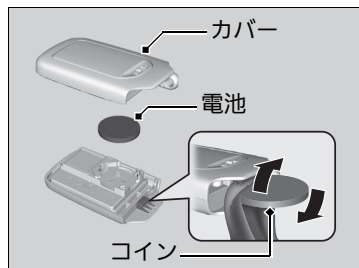
電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。

▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアークリーンフィルター

■エアークリーンフィルターの交換時期

エアークリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

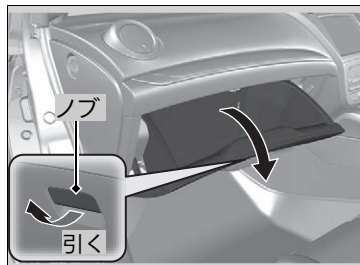
■エアークリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

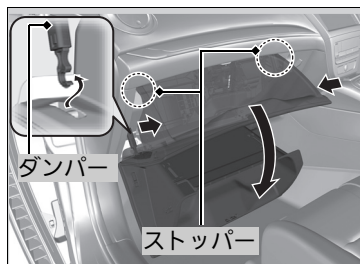
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉、粉じんを集じんし、アレルギーを処理、排気ガス臭も低減します。

エアクリーンフィルターの交換

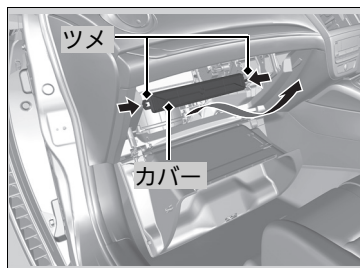


1. グローブボックスを開ける。

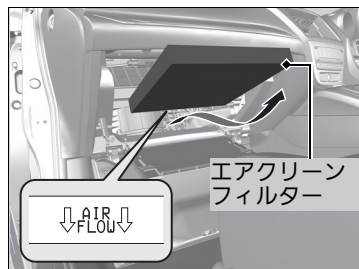


2. ダンパーを外す。

3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



4. 左右にあるツメを押しながら、カバーを外す。



5. エアクリーンフィルターを引き出す。

6. 新品と交換する。

▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

※車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ 本革のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

※ ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合、必ず洗車をしてください。

- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ・海岸地帯を走行したとき
- ・コールトール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

自動洗車機を使うとき

- ・自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ・ドアミラーを格納する
- ・ワイパースイッチを OFF にする

高圧洗浄機を使うとき

- ・洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ・ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
 - ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- ・エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水 droplet が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

▶▶ アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

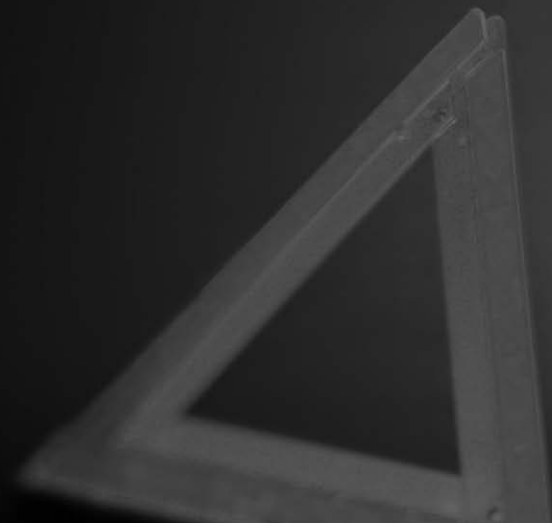
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

万一の場合には

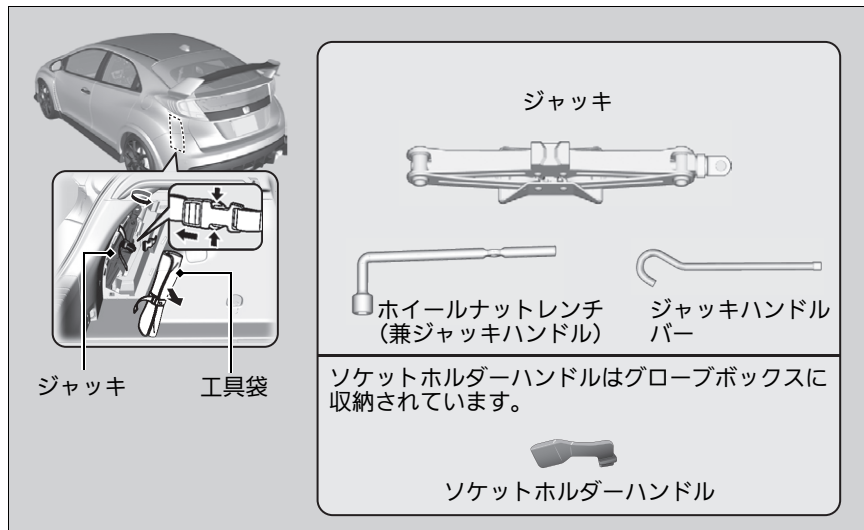
この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、非常信号灯	215
パンクしたとき	216
パンクしたタイヤの応急修理	216
ジャッキの取り扱い	225
エンジンが始動しない	
エンジン状態の確認	227
Honda スマートキーの電池が切れたとき ...	228
緊急時のエンジン停止方法	229

ジャンプスタート	230
オーバーヒート	232
警告灯の点灯 / 点滅	233
ヒューズ	
ヒューズの設置場所	237
ヒューズの点検と交換	243
けん引	244
テールゲートが開かないとき	245

工具の種類



非常信号灯

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

非常信号灯に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意

■ 非常信号灯 P.2

工具の種類

工具類はカーゴスペースの左側に収納されています。

非常信号灯

電池が消耗していないか、ときどき作動させて点灯状態を確認してください。電池が切れていたり発光が弱いときは電池を交換してください。

電池を交換しても点灯しなかったり、発光が弱いときは、最寄のHonda 販売店で点検を受けてください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

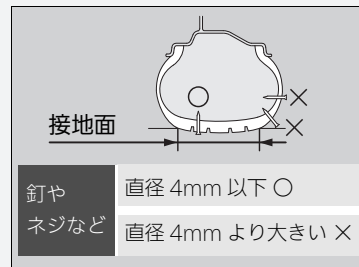
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. チェンジレバーを **R** に入れる。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

❏ パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

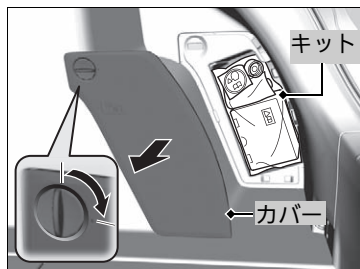
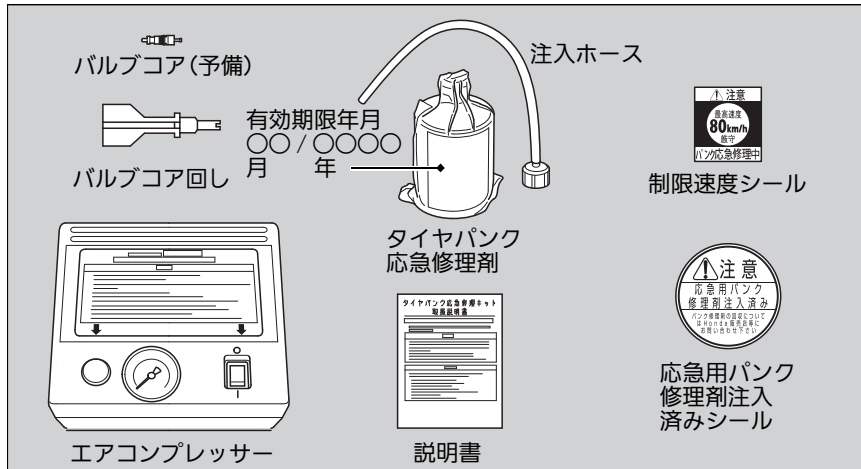


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

タイヤ応急修理の準備

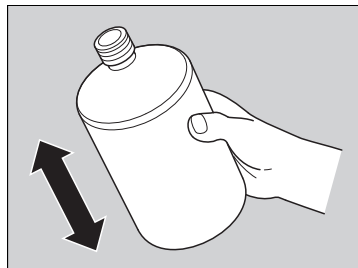
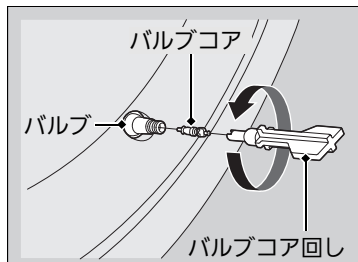
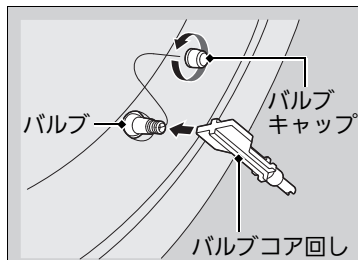


1. カーゴスペース右のカバーを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

▶▶ タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤の注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。
2. バルブコア回しの突起部分をバルブに押し当てて、タイヤの空気を完全に抜く。
3. バルブコア回しで、バルブコアを回して外す。
▶ 外したバルブコアは、汚れないようきれいなところに保管します。
4. アルミ袋を破って、応急修理剤のボトルを取り出す。
5. 応急修理剤のボトルをよく振る。

応急修理剤の注入

警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

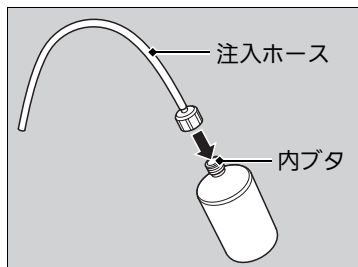
注意

タイヤの空気は完全に抜く。

タイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

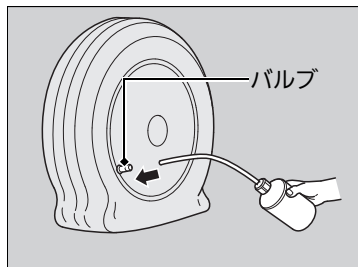
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

注入ホースを取り付けたあと、応急修理剤のボトルを振らない。修理剤が注入ホースから飛び出るおそれがあります。

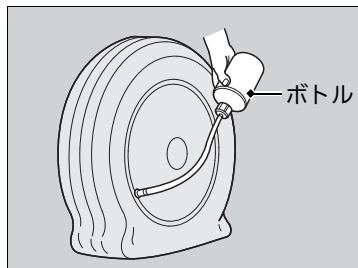


6. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態
で、ボトルに注入ホースを取り付ける。

▶ 注入ホースをねじ込むと、内ブタが破
れます。



7. 注入ホースをバルブに差し込む。



8. 応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、ボ
トル内の修理剤を全てタイヤの中に注入
する。

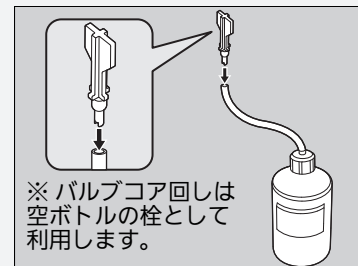
▶ 全ての修理剤がタイヤの中に入るよ
う、手でボトルを何回も圧迫してくだ
さい。

9. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜
く。

❏ 応急修理剤の注入

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちな
いおそれがありますのでご注意ください。

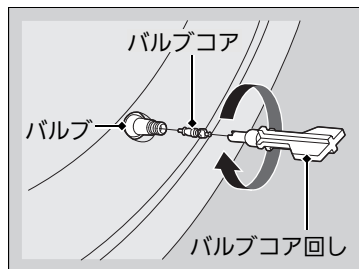
注入が終わった空ボトルから修理剤がもれな
いよう、バルブコア回しで注入ホースに栓を
してください。



注入後の空ボトルは、タイヤ修理時に使用済
み応急修理剤の回収に使用します。

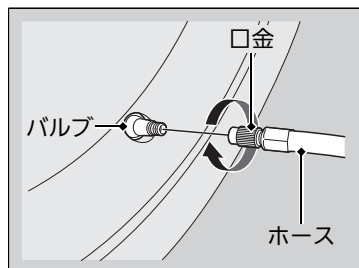
捨てずに、Honda販売店か専門修理工場までお
持ちください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボ
トルの適切な処分については販売店にお尋ね
ください。

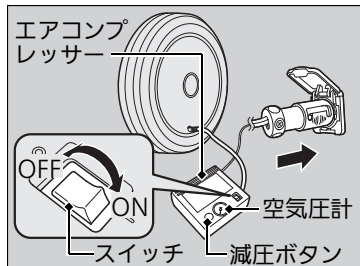
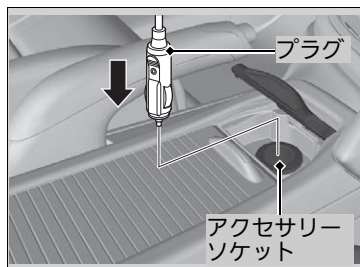


10. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しで右に回し、しっかりねじ込む。

■エアの注入



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



3. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

▶ アクセサリソケット P.133

4. エンジンを開始する。

▶ 一酸化炭素について P.46

5. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

指定空気圧：

前輪：240 kPa (2.4 kgf/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

6. エアコンプレッサーのスイッチをOFFにする。

▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を確認します。

▶ 空気を入れすぎたときは、減圧ボタンを押して空気を抜きます。

❖ エアの注入

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

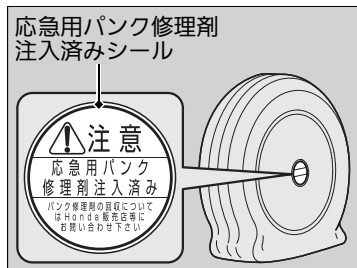
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



7. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリースOCKETから外す。
8. エアコンプレッサーホースを外す。
9. エアコンプレッサーをカーゴルームに収納する。
10. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。
▶ タイヤのホイールの平らな部分に貼ってください。

※エアの注入

10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

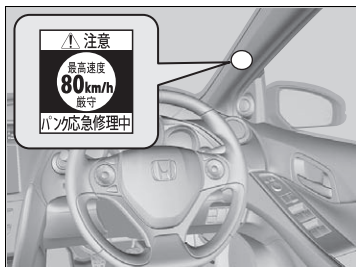
エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにエアホースをきつく締め付ける。

点検走行

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

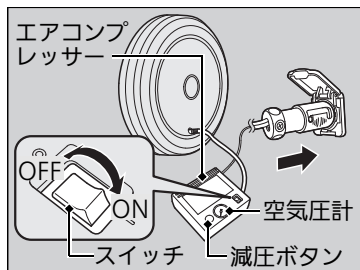
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



5. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。

6. 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 未満の場合：

応急修理剤では修理はできません。運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が、指定空気圧の場合、応急修理は完了です。

指定空気圧：

前輪：240 kPa (2.4 kgf/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

- 空気圧が130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以上、指定空気圧以下の場合、エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ2から6までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でのタイヤの修理、交換を行ってください。

7. エアコンプレッサーなどをカーゴスペースに収納する。

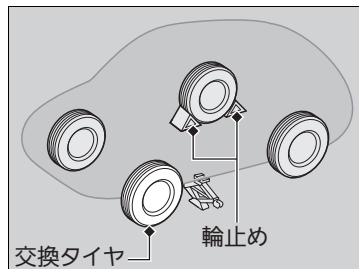
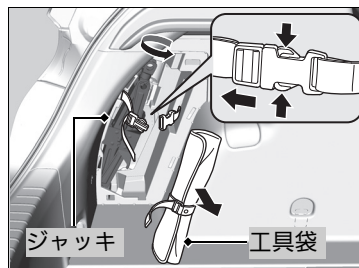
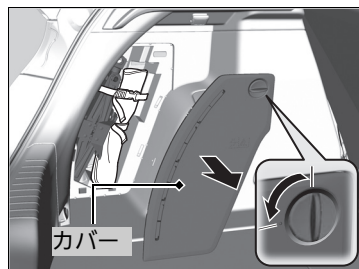
点検走行

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. チェンジレバーを **R** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴスペース左のカバーを開ける。
6. 工具袋とジャッキを取り出す。
7. 工具袋からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
8. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
9. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

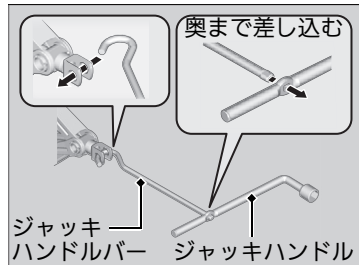
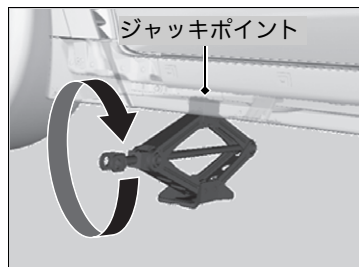
注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

このジャッキで別の車を上げたり、この車を上げるために別の車のジャッキを使用した場合、車両がジャッキが破損することがあります。



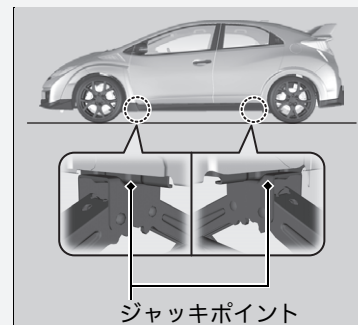
10. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

11. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

※ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンが始動しない

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

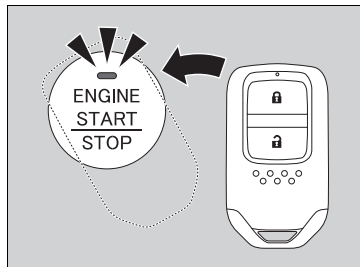
■ ジャンプスタートの方法 P.230

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する  が表示されているとき ■ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.228 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ■ ENGINE START/STOP スイッチ P.108 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ■ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.228 室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ■ ヒューズの点検と交換 P.243
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ■ エンジンの始動 P.149 イモビライザーシステム表示灯を確認する イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ■ イモビライザーシステム P.104 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ■ 燃料計 P.65 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ■ ヒューズの点検と交換 P.243

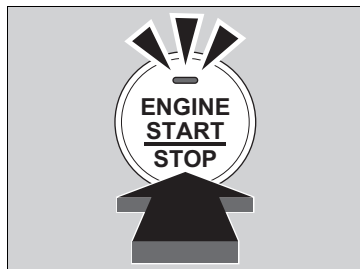
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
▶ 「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約 30 秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、クラッチペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
▶ クラッチペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。



緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP は走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止させるために使用することができます。

- **ENGINE START/STOP** を約 2 秒間押す。
- **ENGINE START/STOP** を連続して 2 回押す。

このとき、ハンドルはロックしません。

パワーモードは OFF モードになります。

- 車両が完全に停止後、クラッチペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 3 回連続して押す。
▶ ハンドルがロックされます。

⚠緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に
ENGINE START/STOP を押さないでください。

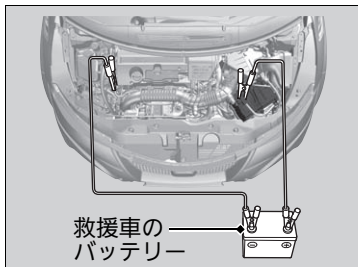
ジャンプスタートの方法

■ジャンプスタートの方法

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

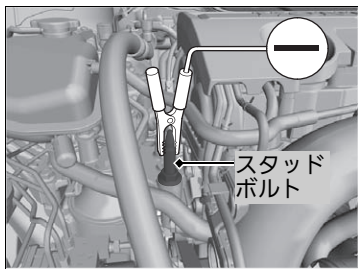


1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。

▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。



☒ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業



警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

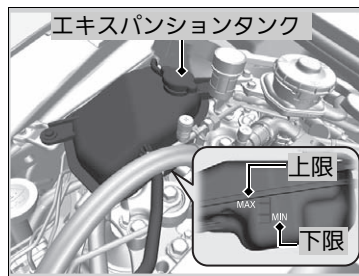
次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針が **H** の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶ **蒸気が出ていない場合**：エンジンをかけたままボンネットを開ける。
▶ **蒸気が出ている場合**：エンジンを止め、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを止めます。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し水温計を確認する。水温計の針が下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

※オーバーヒートしたときの対処方法



蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずエキスパンションタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

水温計の針が **H** の目盛まで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを止め、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ 消灯した：運転を再開してください。
▶ 10 秒以内に消灯しない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

※充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。

エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

タイヤの空気圧が著しく低いときまたはタイヤ空気圧警報システムを初期化していないときに点灯します。

タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約 1 分間点滅したあと、点灯します。

■点灯したらすること

急ハンドルや急ブレーキを避け注意深く運転してください。

- 安全な場所に停車します。タイヤの空気圧を点検し、指定空気圧までエアを注入します。
- タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

📖 仕様 P.247

- 空気圧調整後に、初期化を実施してください。

📖 タイヤ空気圧警報システムの初期化 P.167

■点滅のあと点灯したらすること

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

📖 タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

タイヤの空気圧が低い状態で走行するとタイヤが過熱する場合があります。過熱した状態で走行を続けるとタイヤが損傷することがあります。タイヤは常に適正空気圧を保つようにしてください。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。この取扱説明書が手元がない場合は、車のラベルをご覧ください。

ABS 警告灯または VSA 警告灯と同時に点灯したときは、ABS または VSA の異常が考えられます。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

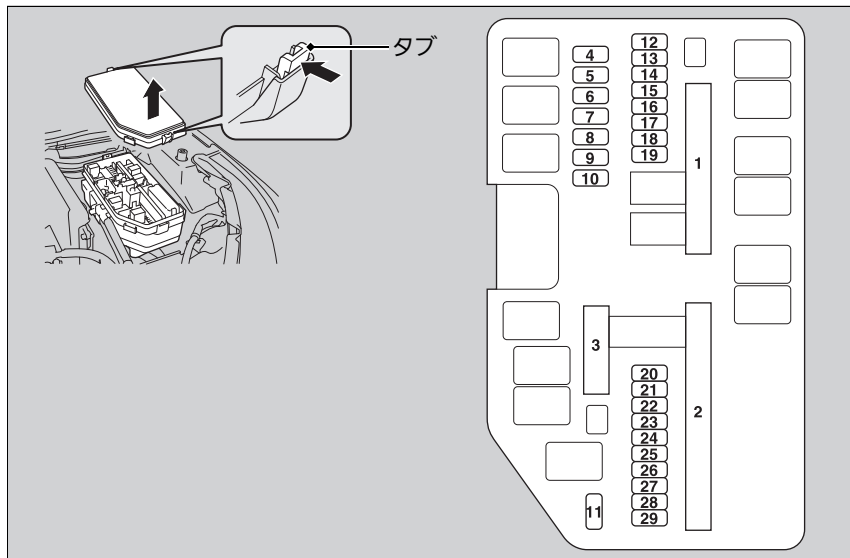
電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側にあります。

1. エアインテークダクトをエアクリーナーケースから取り外す。
2. タブを押してフタを開ける。



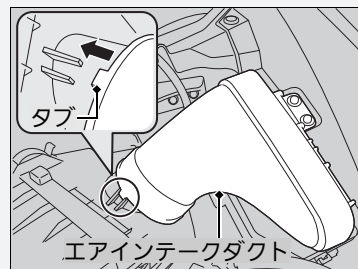
※エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックス A

ヒューズ番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

アドバイス

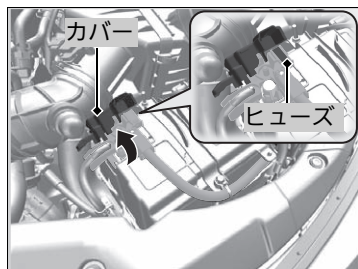
エアインテークダクト取り付け時は、図のようにタブとガイドがそろっていることを確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	EPS	70A
	—	40A
	ABS/VSA FSR	20A
	ABS/VSA モーター	40A
	ST/MG SW	30A
	メインヒューズ	120A
	イグニッション メイン	50A
	ヒューズボックス メイン	60A
	ヒューズボックス メイン 2	40A
	ヘッドライト メイン	30A
2	DC/DC 1	30A
	リヤデフロスター	30A
	DC/DC 2	30A
	ヒーターモーター	40A
	イグニッション メイン 2	30A
	サブファン	30A
	メインファン	30A
3	—	—
	—	—
	—	—
	—	—
4	SUB RLY OUT	7.5A
5	START DIAG	7.5A
6	—	—

	装備	容量
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	バックアップ 2	10A
12	フォグライト	20A
13	ADS	10A
14	ハザード	15A
15	IGP 2	15A
16	イグニッションコイル	15A
17	制動灯	10A
18	ホーン	10A
19	—	—
20	右側ヘッドライト ロービーム	15A
21	IGP	20A
22	バックアップ FI ECU	7.5A
23	左側ヘッドライト ロービーム	15A
24	—	—
25	マグネットクラッチ	7.5A
26	ウォッシャー	20A
27	スモールライト	20A
28	室内灯	10A
29	バックアップ	10A



■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、バッテリーの⊕端子の隣にあります。タブを押して開けてください。カバーを引き上げて開けてください。

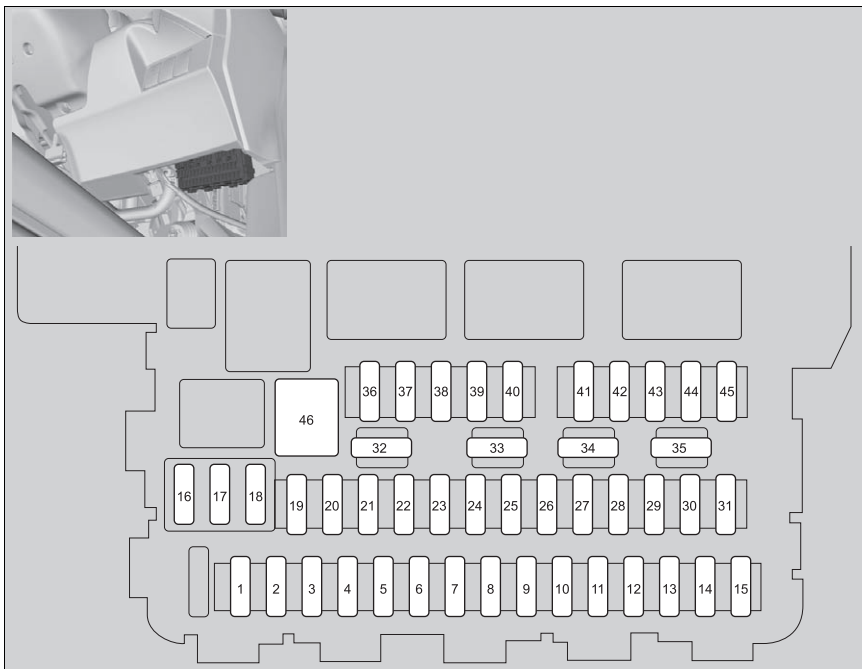
■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
	バッテリーメイン	150A

■ 室内運転席側のヒューズボックス

インストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。



☒ 室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズ番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

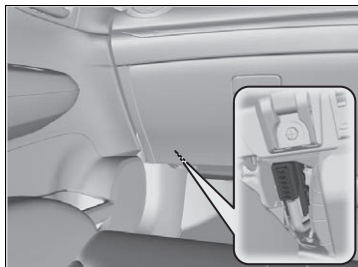
■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	—	—
2	ACG	10A
3	SRS エアバッグ システム	10A
4	フューエルポンプ	15A
5	リレー1	7.5A
6	OPTION	7.5A
7	—	—
8	UNL	15A
9	UNL	15A
10	—	—
11	—	—
12	CTR ACC	20A
13	—	—
14	—	—
15	—	—
16	—	—
17	—	—
18	—	—
19	ACC	7.5A
20	ACC KEYLOCK	7.5A
21	—	—
22	HAC	7.5A
23	—	—
24	リレー2	7.5A

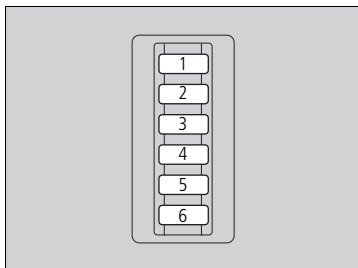
	装備	容量
25	ACC	7.5A
26	—	—
27	アクセサリソケット	20A
28	—	—
29	ODS	7.5A
30	—	—
31	SMART	7.5A
32	LCK	15A
33	LCK	15A
34	スモールライト	7.5A
35	イルミネーション+	7.5A
36	—	—
37	—	—
38	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
39	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
40	—	—
41	ドアロック	20A
42	運転席 パワーウィンドー	20A
43	後席右側 パワーウィンドー	20A
44	助手席パ ワーウィンドー	20A
45	後席左側 パワーウィンドー	20A

	装備	容量
46	ワイパーメイン	30A

■室内助手席側のヒューズボックス



サイドロアパネルの奥にあります。



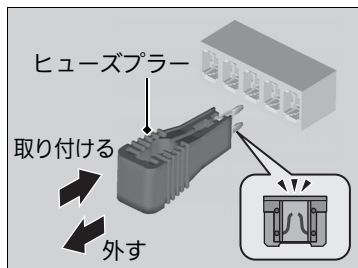
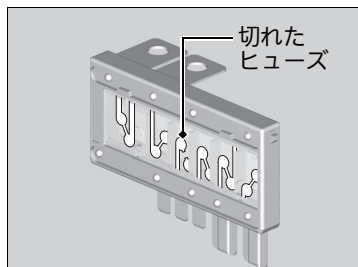
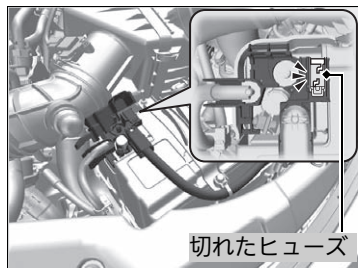
■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	メーター	7.5A
2	ABS/VSA	7.5A
3	MICU	7.5A
4	バックアップ 2 メイン	15A
5	ラジオ*	7.5A
6	オーディオ アンプ*	20A

※室内助手席側のヒューズボックス

ヒューズ番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のヒューズボックスAのフタを取り外し、大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
5. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❏ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ 各ヒューズの装備と容量 P.238, 239, 241, 242

エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

⚠非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

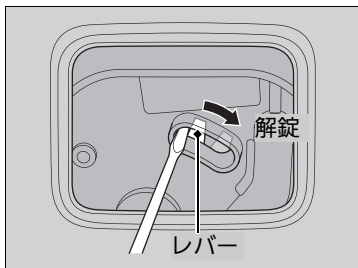
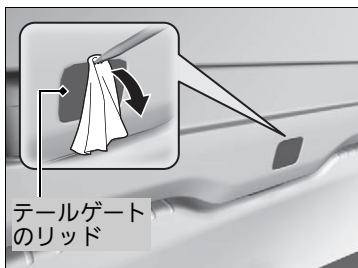
アドバイス

車両についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

車体が破損、変形する場合があります。

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。
2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様	247
----------	-----



仕様

■仕様

名称	シビック TYPE R
排気量	1,995 cm ³
車体形状	4ドアハッチバック
乗車定員	4名

■調節

点火プラグ	NGK	ILZKAR8H8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1～5mm
	床板とのすき間	114mm以上 [約 196N (20kgf) の力]
	カーペットとの すき間(参考値)	87mm以上 [約 196N (20kgf) の力]
	パーキング ブレーキ	引きしろ 6～8ノッチ [約 196N (20kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛プレミアムガソリン
燃料タンク容量	50 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	48AH(5)/L2※1
----------	--------------

※1 : アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-55W※1
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
車幅灯		LED
フォグライト		12V-55W※1
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-16W(橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		12V-5W
室内灯電球		12V-8W
マップランプ		12V-8W
パニティミラー照明灯		12V-2W
カーゴスペース照明灯		12V-5W

※1 : ハロゲンバルブ

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4	
-----	-----------------------------------	--

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ MTF-III	2.2 ℓ (交換時)
-----	-------------------------	-------------

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジン オイル	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20※1
	ULTRA LTD	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	5.0 ℓ
	オイル、オイルフィ ルター同時交換時	5.4 ℓ

※1 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラエクーラント	
規定濃度	50%	
規定量	6.52 ℓ (交換時 : エキスパンションタンク 0.64 ℓ 含む)	

■タイヤ

サイズ	235/35ZR19 91Y	
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 240[2.4]/ 後輪 220[2.2]	
リムサイズ	19X8 1/2J	

数字

0-100km/hタイム計測	75
0-400mタイム計測	77

A

A/C(エアコン)	139, 206
ABS(アンチロックブレーキシステム)	171
ABS警告灯	50, 171

C

CRUISE CONTROL (クルーズコントロール)	162
--------------------------------------	-----

E

ENGINE START/STOPスイッチ	108
パワーモードの切り換えかた	108
EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯	52, 235

G

Gメーター	72
-------------	----

H

Hondaスマートキー	93, 94
Hondaスマートキーシステム警告灯	50

緊急時のエンジン停止方法	229
電池交換のしかた	204

I

ISOFIX	41
--------------	----

M

MIST	114
------------	-----

P

PGM-FI警告灯	49, 234
-----------------	---------

R

REVインジケーター	57
+R表示灯	57

S

SRSエアバッグ	27
エアバッグシステム警告灯	33, 51

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	165
VSA OFF警告灯	51
VSA警告灯	51, 165

W

W(ワット)数	247
---------------	-----

ア

アイドリングストップシステム	156
アイドリングストップシステム警告灯	52
アイドリングストップ表示灯	57
アクセサリ	178
アクセサリソケット	133, 221
アクセル開度計	73
アジャイルハンドリングアシスト	166
安全なドライブのために	19
安全に関する表示	16
安全のための確認事項	19
アンチロックブレーキシステム(ABS) ABS警告灯	50, 171

イ

一酸化炭素の危険性	46
イモビライザーシステム	104
イモビライザーシステム表示灯	55
イルミネーションコントロール	116
インフォメーションスイッチ	68

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)..... 111

ウィンドウォッシャー

ウィンドウォッシャー液の補給..... 187

ウィンドウォッシャースイッチ..... 114

ウィンドウの開閉..... 106

ウェアインジケーター..... 200

運転

エンジンの始動..... 149

クルーズコントロール..... 162

シフト操作..... 154

ブレーキ操作..... 169

エ

エアクリナーエレメント..... 247

エアコン..... 139, 206

エアクリンフィルター..... 206

オートエアコンの使いかた..... 140

窓の曇りや霜の取りかた..... 142

エアバッグ..... 27

SRSエアバッグ..... 27

エアバッグシステム警告灯..... 33

エアバッグシステム故障診断記録装置..... 16

エアバッグのお手入れ..... 34

サイドカーテンエアバッグ..... 30

エキスパンションタンク..... 185, 232

エキスパンションタンクキャップ..... 185, 232

エンジンオイル..... 187

推奨エンジンオイル..... 187, 247

油圧警告灯..... 48, 233

エンジンの始動..... 149

エンジンが始動しない..... 227

ジャンプスタート..... 230

エンジンルーム内のメンテナンス..... 185

ウィンドウォッシャー液の補給..... 187

エンジンルーム内のメンテナンス項目..... 185

推奨エンジンオイル..... 187

ボンネットを開ける..... 186

冷却水の点検と補給..... 232

エンジン冷却水..... 247

オ

追越合図(パッシング)..... 112

応急修理剤(タイヤパンク)..... 216

オートエアコン..... 140

オートワイパー..... 115

オーバーヒート..... 232

オドメーター..... 70

カ

カーゴフック..... 135

外気温表示..... 70

鍵(かぎ)..... 92

カスタマイズ機能..... 79

ガソリン..... 174, 247

キ

キー

Hondaスマートキー..... 93, 94

Hondaスマートキーの電池が

切れたとき..... 228

キー閉じ込み防止装置..... 98

キーナンバータグ..... 93

キーの種類と機能..... 92

キーレスエントリー..... 97

後席ドアが開かない..... 14

電池交換のしかた..... 204

ドアが開かない..... 14

内蔵キー..... 92

キー閉じ込み防止装置..... 98

キーナンバータグ..... 93

キーレスエントリー..... 97

ギヤポジション表示灯..... 56

給油..... 174

給油のしかた..... 174

指定燃料..... 174, 247

燃料計..... 65

燃料残量警告灯..... 50

ク

空気圧..... 247

空気圧測定器による点検..... 200

クルーズコントロール..... 162

クルーズコントロール表示灯..... 56

クルーズメイン表示灯.....	56
車の改造.....	178
グローブボックス.....	128

ケ

経過時間表示.....	68, 72
計器.....	47
警告灯.....	48
ABS警告灯.....	50, 171
EPSシステム警告灯.....	52, 235
Hondaスマートキーシステム警告灯.....	50
PGM-FI警告灯.....	49, 234
VSA OFF警告灯.....	51
VSA警告灯.....	51
アイドリングストップシステム警告灯.....	52
エアバッグシステム警告灯.....	51
シートベルト非着用警告灯.....	49
充電警告灯.....	49, 233
タイヤ空気圧警報システム警告灯.....	53, 236
ドアテルゲート開閉警告灯.....	51
燃料残量警告灯.....	50
ブレーキ警告灯(レッド).....	48, 234
ブレーキシステム警告灯(オレンジ).....	48
油圧警告灯.....	48, 233
警告灯の点灯/点滅.....	233
けん引.....	244

コ

コートフック.....	134
交換	
後退灯電球.....	192
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球.....	191
室内灯電球.....	195
車幅灯電球.....	189, 190
制動灯/尾灯電球.....	191
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球.....	191
テールゲート照明灯電球.....	195
ハイマウントストップランプ電球.....	194
パニティミラー照明灯電球.....	195
番号灯電球.....	193
フォグライト電球.....	190
ヘッドライト電球.....	188
ワイパーブレードラバー.....	197

工具

航続可能距離表示.....	68, 71
後退灯.....	192
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯.....	191
コンソールボックス	
センターコンソールボックス.....	129

サ

サービス診断記録装置について.....	16
サイドカーテンエアバッグ.....	30

シ

シートの調節.....	121
フロントシート.....	121
ヘッドレスト.....	125
シートベルト.....	20
アンカーポイント.....	26
シートベルトの着用.....	23
シートベルトの点検.....	26
シートベルト非着用警告灯.....	49
シートベルトプリテンショナー.....	22
シートベルトリマインダー.....	21
妊娠中のかたのシートベルト 着用のしかた.....	25
時刻の設定.....	91
室内装備品.....	128
室内灯.....	126
指定燃料.....	174, 247
シフト操作.....	154
車外の清掃.....	211
ジャッキ.....	225
車内の清掃.....	209
車幅灯.....	189, 190
ジャンプスタート.....	230
充電警告灯.....	49, 233
瞬間燃費表示.....	71
仕様.....	247
衝撃感知ドアロック解除システム.....	100
ショルダーアンカー.....	24

ス

水温計	73
スイッチ	
ENGINE START/STOPスイッチ	108
イルミネーションコントロール	116
フォグライトスイッチ	113
方向指示器(ウィンカースイッチ)	111
ライトスイッチ	112
リヤデフロスタースイッチ	117
ワイパー/ウォッシャー	114
ステアリング	117
スパークプラグ	247
スピードメーター	65

セ

清掃	209
制動灯	191
セキュリティシステム	104
イモビライザーシステム	104
セキュリティアラームシステム	104
センターコンソールボックス	129

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	191
-------------------------	-----

タ

ターボ車	177
タイヤ	199
ウェアインジケーター	200
空気圧警報システム警告灯	53, 236
指定空気圧	247
タイヤの点検	199
タイヤのローテーション	202
タイヤパンク応急修理キット	216
冬期のタイヤ	203
パンク	216
タコメーター	66

チ

チェンジレバーの操作	154
チャイルドシート	35
ジュニアシート	44
乳児のチャイルドシート	36
幼児のチャイルドシート	37
チャイルドブルーフ	101
駐停車操作	173

テ

データの開示について	16
テールゲート照明灯	
電球の交換	195

テールゲートの開閉	102
テールゲートが開かないとき	245
デフロスター	142
リヤデフロスター	117
点火プラグ	247
電子制御ブレーキアシスト	172
電池交換	204

ト

ドアの施錠と解錠	92
キー閉じ込み防止装置	98
キーナンバータグ	93
キーの種類と機能	92
キーレスエントリー	97
後席ドアが開かない	14
車外でのドアの施錠/解錠	95
車内での施錠/解錠	99
衝撃感知ドアロック解除システム	100
チャイルドプルーフ	101
ドアが開かない	14
ドアテールゲート開閉警告灯	51
ドアミラー	119
冬期のタイヤ	203
時計	91
時計の表示	72
トップテザーアンカレッジ	42
トップテザーストラップ	42

トラブルシューティング	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	15
エンジンが始動しない	227
オーバーヒートした	232
警告灯が点灯/点滅した	233
けん引してもらいたい	244
後席ドアが開かない	14
ジャンプスタートしたい	230
走行するとブザーが鳴る	15
ドアが開かない	14
パンクした	216
ヒューズが切れた	237
ブレーキを踏むと音がする	15
ブレーキを踏むと振動する	14
トランスミッションフルード	247
トリップメーター	70
ドリンクホルダー	130

ナ	
内蔵キー	92

ネ	
燃料	174, 247
燃料計	65
燃料残量警告灯	50

ハ	
パーキングブレーキ	169
排気ガスの危険性	46
ハイビーム	112
電球の交換	188
ハイビーム表示灯	54
ハイマウントストップランプ	194
バッシング	112
バッテリー	
ジャンプスタート	230
充電警告灯	49, 233
容量/タイプ	247
パワーウィンドーの開閉	106
パワーモード	
パワーモードオートオフ機能	109
パワーモード警告ブザー	109
パワーモードの切り換えかた	108
バンク	216
番号灯	193
ハンドル	117
ハンドル位置調整レバー	117
汎用型ISOFIXチャイルドシート	38

ヒ	
ヒーテッドドアミラー	117
非常信号灯	215
尾灯	191

ヒューズ	237
ヒューズの設置場所	237
ヒューズの点検と交換	243
表示灯	54
REVインジケーター	57
+R表示灯	57
アイドリングストップ表示灯	57
イモビライザーシステム表示灯	55
インフォメーション表示灯	58
ギヤポジション表示灯	56
クルーズコントロール表示灯	56
クルーズメイン表示灯	56
セキュリティアラームシステム	
作動表示灯	55
ハイビーム表示灯	54
フォグライト点灯表示灯	54
方向指示器/非常点滅表示灯	54
ライト点灯表示灯	54

フ	
ブースト圧計	73
ブースターケーブル	230
フォグライト	190
フォグライトスイッチ	113
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	15
走行するとブザーが鳴る	15
フューエルリッドの開けかた	174

ブレーキ警告灯(レッド).....	48, 234
ブレーキシステム.....	169
ABS(アンチロックブレーキシステム) ...	171
電子制御ブレーキアシスト.....	172
パーキングブレーキ.....	169
フットブレーキ.....	170
ブレーキ圧計.....	72
ブレーキ警告灯(レッド).....	48, 234
ブレーキシステム警告灯(オレンジ).....	48
ブレーキを踏むと音がする.....	15
ブレーキを踏むと振動する.....	14
ブレーキシステム警告灯(オレンジ).....	48
ブレーキフルード.....	247
ブレーキ警告灯(レッド).....	48, 234
フロアボード.....	136
フロントシート.....	121

へ

平均車速表示.....	68, 72
平均燃費表示.....	68, 71
ヘッドライト.....	112, 213
追越合図(パッシング).....	112
電球の交換.....	188
ハイビーム.....	112
ハイビーム表示灯.....	54
ライト点灯表示灯.....	54
ロービーム.....	112

ヘッドレスト.....	125
リヤシート.....	125

ホ

ホイールサイズ.....	247
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	111
方向指示器/非常点滅表示灯.....	54

マ

マスタードアロックスイッチ.....	100
マップランプ.....	127
マルチインフォメーションディスプレイ.....	67
メッセージ.....	59

ミ

ミラー.....	118
自動式防眩ミラー.....	118
ドアミラー.....	119
ルームミラー.....	118

メ

メーター.....	7, 65
スピードメーター.....	65
タコメーター.....	66
燃料計.....	65

マルチインフォメーション ディスプレイ.....	67
-----------------------------	----

メンテナンス.....	179
Hondaスマートキー.....	204
エアコンのお手入れ.....	206
エンジンルーム内のメンテナンス.....	185
清掃.....	209
タイヤの点検と整備.....	199
メンテナンスに関する注意事項.....	181
メンテナンスを安全に行うために.....	181
ライト類の点検と整備.....	188
ワイパーブレードラバーの点検と整備....	197

ユ

油圧計.....	73
油圧警告灯.....	48, 233
油温計.....	73

ラ

ライトスイッチ.....	112
追越合図(パッシング).....	112
ハイビーム.....	112
ハイビーム表示灯.....	54
フォグライト点灯表示灯.....	54
ライト点灯表示灯.....	54
ロービーム.....	112
ライト類の点検と整備.....	188
後退灯電球.....	192

後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球.....	191
室内灯電球.....	195
車幅灯電球.....	189, 190
制動灯/尾灯電球.....	191
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球.....	191
テールゲート照明灯電球.....	195
ハイマウントストップランプ電球.....	194
パニティミラー照明灯電球.....	195
番号灯電球.....	193
フォグライト電球.....	190
ヘッドライト電球.....	188
ラップタイム計測.....	74

リ

リムサイズ.....	247
リヤシート.....	123
ヘッドレスト.....	125
リヤシェルフ.....	138
リヤデフロスタースイッチ.....	117

ル

ルームミラー.....	118
-------------	-----

レ

冷却水.....	232, 247
オーバーヒート.....	232
補給.....	232

ロ

ロアアンカレッジ.....	42
ロービーム.....	112
電球の交換.....	188

ワ

ワイパー/ウォッシャー.....	114
ワイパーブレードラバー.....	197

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。

ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様 相 談 セ ン タ ー
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名